

袖ヶ浦市角山遺跡

— 拡委第1号 北部調整池増設工事に伴う埋蔵文化財調査委託 —
報告書

平成 25年 1月

君津広域水道企業団
公益財団法人 千葉県教育振興財団

そで が うら し すま やま い せき

袖ヶ浦市角山遺跡

— 拡委第1号 北部調整池増設工事に伴う埋蔵文化財調査委託 —
報告書



序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してまいりました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第696集として、君津広域水道企業団の北部調整池増設工事に伴って実施した袖ヶ浦市角山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の石器や縄文時代の陥穴、中～近世の道路状遺構が見つかるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導・御協力を頂きました地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係機関、また発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成25年1月

公益財団法人 千葉県教育振興財団
理 事 長 渡 邊 清 秋

凡 例

- 1 本書は、君津広域水道企業団による拡委第1号 北部調整池増設工事に伴う埋蔵文化財調査委託報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県袖ヶ浦市蔵波字角山2938に所在する角山遺跡（遺跡コード229-039）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、君津広域水道企業団の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業は、調査研究部長 関口達彦、調査2課長 橋本勝雄の指導のもと、主任上席文化財主事 山田貴久が下記の期間に実施した。
発掘調査 平成24年6月4日～平成24年7月23日
整理作業 平成24年7月17日～平成24年9月28日
- 5 本書の執筆は、主任上席文化財主事 山田貴久が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、君津広域水道企業団、袖ヶ浦市教育委員会、袖ヶ浦市郷土博物館ほか多くの機関、多くの方々から御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第1・14・15図 袖ヶ浦市発行1/2,500地形図（14図＝1/1,250、15図＝1/1,750に拡大）
第4図 地図史料編纂会編 明治前期 関東平野地誌図集「姉崎」「上総横田」「奈良輪」「木更津」
第5図 国土地理院発行 1/25,000数値地図「姉崎」「上総横田」「奈良輪」「木更津」
- 8 遺跡周辺の航空写真（図版1）は、京葉測量株式会社が平成元年1月29日に撮影した89C-C35-10を約1/10,000及び約1/2,000にそれぞれ拡大して使用した。
- 9 本書で使用した座標は、世界測地系に基づく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北を示す。

※本書の執筆に際し、以下の文献を参考にした。

- 伊丹山遺跡発掘調査団 1979「袖ヶ浦町伊丹山遺跡-角山配水池建設に伴う埋蔵文化財調査報告-」
大谷弘幸 1994「西上総地域の古道跡-いわゆる鎌倉街道を中心として-」〔研究連絡誌 第41号〕（財）千葉県文化財センター
上守秀明 2000「216 山野貝塚」千葉県歴史資料編 考古1（旧石器・縄文時代）千葉県歴史シリーズ9
君津広域水道企業団 1980「君津広域水道用水供給事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-角山遺跡-深城道跡-飯富道跡-苗見作道跡-」
（財）君津都市文化財センター 1999「山谷道跡-市道飯富-上泉線Ⅱ期建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書」
（財）君津都市文化財センター発掘調査報告書 第155集
（財）千葉県文化財センター 2000「市原市天羽田桶荷山遺跡-袖ヶ浦市天羽田桶荷山遺跡」千葉県文化財センター調査報告 第380集
（財）千葉県文化財センター 2001「東関東自動車道（千葉-富津線）埋蔵文化財調査報告書9-袖ヶ浦市山谷道跡-」
千葉県文化財センター調査報告 第411集
櫻井敦史 1998「4. 天羽田桶荷山遺跡」市原市文化財センター年報 平成7年度（財）市原市文化財センター
袖ヶ浦市教育委員会 2009「千葉県袖ヶ浦市 向萩原遺跡（3）」袖ヶ浦市埋蔵文化財調査報告書 第10集
袖ヶ浦市教育委員会 2011「伊丹山A遺跡・山野貝塚（角山遺跡第2次調査・伊丹山遺跡第2次調査）・西ノ谷道跡第9次調査
・水神下道跡第2次調査」平成22年度 袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書
袖ヶ浦市教育委員会 2012「清水頭道跡第2次調査・中六道跡第13次調査・水神下道跡第4次調査・山谷貝塚第3次調査」
平成23年度 袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書
千葉県教育委員会 2000「千葉県埋蔵文化財分布地図（4）-君津・夷隅・安房地区（改訂版）-」

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1.	調査に至る経緯	1
2.	調査の経過と方法	3
第2節	遺跡の位置と環境	6
1.	遺跡の位置と地形	6
2.	周辺の主な遺跡	6
3.	角山遺跡の調査歴	8
第2章	検出した遺構と遺物	10
第1節	旧石器時代	10
第2節	縄文時代	19
1.	遺構	19
2.	縄文土器	20
3.	石器	20
第3節	中世以降	22
第3章	まとめ	24
	報告書抄録	

挿図目次

第1図	グリッドの設定	2	第8図	3 F 21 周辺遺物出土状況 (石材別)	13
第2図	遺構の分布、トレンチ・グリッドの配置、基本層序	4	第9図	2 E 79 石器出土状況	14
第3図	記録のデジタル化	5	第10図	3 D 53 石器出土状況	14
第4図	角山遺跡周辺の地形	7	第11図	旧石器時代の石器	15
第5図	角山遺跡と周辺の主な遺跡	9	第12図	陥穴 (SK001 ~ SK003)	19
第6図	3 F 21 周辺黒曜石の出土分布	10	第13図	縄文土器・石器	21
第7図	3 F 21 周辺遺物出土状況 (器種別)	12	第14図	道路状遺構 (SD001)	23
			第15図	角山遺跡・伊丹山遺跡の陥穴の分布	25

表目次

表1	旧石器時代の石器属性	16 ~ 18	表2	陥穴の計測値	25
----	------------	---------	----	--------	----

図版目次

図版1	遺跡周辺の航空写真	図版4	SK001 (南西から)・覆土堆積状況
図版2	調査前近景 (南西から・北東から) 調査状況 (上層確認調査)		SK002 (西から)、SK003 (北東から) 調査状況 (遺構の調査)
図版3	3 F 21 周辺遺物出土状況 (西から) 3 D 53 遺物出土状況 (南東から) 2 E 79 遺物出土状況 (南から) 調査状況 (下層確認・本調査)	図版5	SD001 (西から・東から) SD001 硬化面・焼土検出状況
		図版6	旧石器時代出土遺物 縄文土器・石器

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1. 調査に至る経緯

千葉県君津地域の水道事業は、長い間、その水源を主として地下水に求めていた。しかし、昭和40年代後半より、地下水の賦存量に限界があり、また、地盤沈下対策の面からの厳しい新規採取規制、将来予想される地域開発に伴う人口増加及び生活水準の向上による水需要の増加等さまざまな問題が憂慮され、地下水から河川表流水への水源転換が迫られた。

そこで、君津都市広域市町村圏事務組合（木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦町の4市町（当時）で構成）は、小櫃川水系の片倉ダムを水源とする「君津広域水道用水供給事業」を創設した。この事業は、目標年度の昭和57年度において計画一日最大給水量55,000m³を供給するものであった。

一方、千葉県営水道は、時期を同じくして、小櫃川水系の亀山ダムを水源とした「京葉地区水道事業の小櫃川水系に係る事業」の第4次拡張事業を施工中であった。

この同一水系の2事業を継承し、水源及び施設の有効利用と施設の維持管理の合理化、事業経営の経済的有効性等を図るため、昭和53年2月、新たに君津広域水道企業団（千葉県及び前掲4市町（当時）で構成）が発足した。

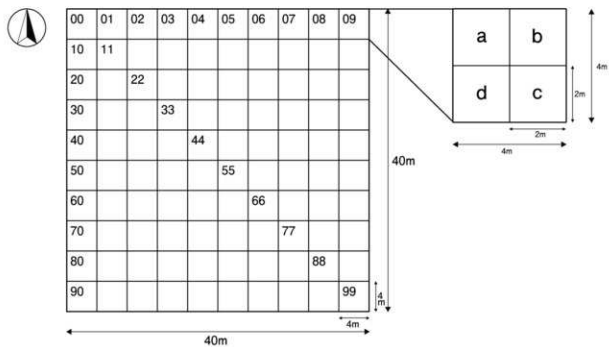
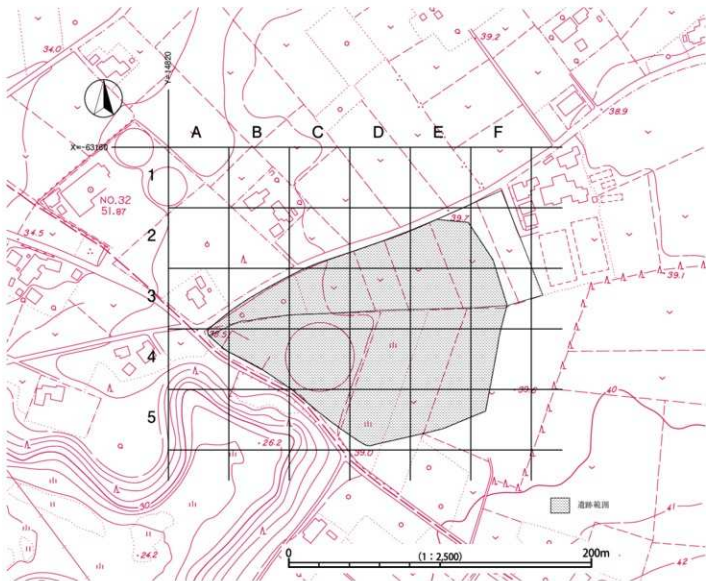
その後、君津広域水道企業団の事業は拡大し、現在では目標年度を平成37年度においた計画一日最大給水量205,000m³を供給する「第1次拡張変更事業」が施工中である。また、その一環として平成27年度を通水目標とする北部袖ヶ浦～金田配水場線送水施設の拡張事業が実施されている。

この北部袖ヶ浦～金田配水場線送水施設とは、木更津市と袖ヶ浦市の将来受水計画に基づき、給水始点である企業団施設の北部調整池から、給水終点となる木更津市が建設予定の金田配水場まで、総延長7.2kmにわたり新たに設置される送水施設（管路）である。給水始点にある調整池とは、供給水量の時間変動を調整する機能を持つとともに、渇水や水源水質事故、停電時等の異常時にも、その貯留量をもって断水の影響をなくし、あるいは軽減するという大きな役割を持つもので、その容量は「計画一日最大給水量の12時間分を標準とし、水道施設の安全性等を考慮して増量することが望ましい」とする「水道施設設計指針」（社団法人日本水道協会発行）に基づいて設計されるものである。

現状は、北部調整池は3池が運用されており、指針に示された「12時間分の有効容量」を確保している。しかしながら、将来的に北部袖ヶ浦～金田配水場線の供給開始に伴って供給水量が増加した場合、既存3池では容量不足が生じることから、北部調整池4・5号池の増設が計画された。そして、その建設用地として、既存施設である北部調整池3号池及び第4中継ポンプ場の北側隣接地が候補に挙げられた。

この建設用地は、周知の遺跡である袖ヶ浦市角山遺跡の一角にあたることから、その取扱いについて、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の間で慎重な協議が重ねられた。その結果、計画変更及び現状保存は困難であることが判明し、発掘調査による記録保存の措置がとられることになった。

発掘調査は公益財団法人千葉県教育振興財団が実施することになり、君津広域水道企業団との間に委託契約が締結された。



第1図 グリッドの設定

2. 調査の経過と方法（第1～3図）

発掘調査は、北部調整池増設工事用地のうち東側の一部を除く5.136㎡の範囲を対象として、平成24年6月4日から確認調査を開始し、その成果に基づいて7月23日まで本調査を実施した。最終的な調査面積は、上層確認調査998㎡、下層確認調査177㎡、下層本調査303㎡、延べ調査面積は1,478㎡に及んだ。本調査終了後、引続き9月28日まで整理作業を行い、本報告書の刊行に至った。

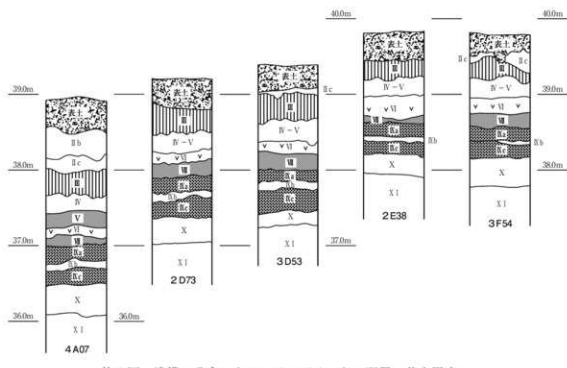
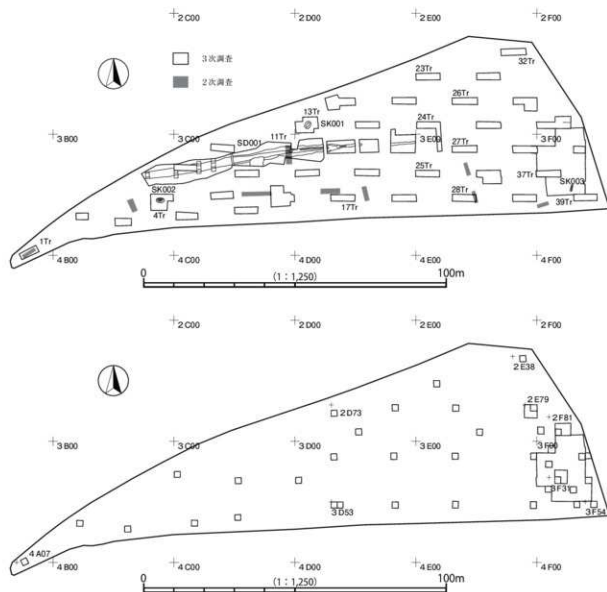
発掘調査では、調査に先立って調査対象地の基準点測量を行った。基準点測量は、多角測量、水準測量、方眼杭打測量からなり、調査範囲内に座標値と水準値を持った方眼杭を打設するものである。この方眼杭は、調査に付随する各種実測作業の際に必要なものため、今回の調査では世界測地系（平面直角座標第Ⅸ系）に基づき、 $X = -63,160,000$ 、 $Y = 14,820,000$ を基点として、角山遺跡の全域を網羅するように設定した40m×40m方眼の大グリッドを基準とした。大グリッドの名称は、基点より南に向かって算用数字で1・2・3…、東に向かってアルファベット大文字でA・B・C…とし、これを組み合わせるとIA、2B…とした。さらに、大グリッドを4m×4m方眼の小グリッドに100分割し、北西隅より東に向かって00～09、南に向かって00～90と割り振り、たとえば2E79、3F32…といった4桁の英数字で表されるものを小グリッドの名称とした。そして、各小グリッドの北西隅に当たる方眼杭にこの4桁の英数字を表記した。

発掘調査は、縄文時代以降を対象とした上層の確認調査から着手した。東西に長い調査対象地の形状に合わせて、東西方向に長さ4m×幅2mを基本としたトレンチをほぼ規則的に設定し、表土及び畑の耕作土等を重機で除去した後、遺構・遺物の検出に努めた。その結果、調査範囲中央北寄りの13トレンチと西寄りの4トレンチにそれぞれ1基ずつ縄文時代の陥穴（SK001、SK002）を検出した。また、調査対象地のほぼ中央を東西に横断するように道路状遺構1条（SD001）を検出した。これらの遺構については、トレンチの追加や拡張を適宜行いながら遺構の調査を実施し、確認調査の段階で上層の調査を終了した。

上層の確認調査とほぼ並行しながら、旧石器時代を対象とした下層の確認調査を開始した。上層確認調査のトレンチの一角を利用し、遺構を検出したトレンチについては多少位置を考慮しながら、ほぼ規則的に2m×2mのグリッドを設定した。ジョレン等を用いてローム層を精査しては、グリッド内に溜まった排土を重機で適宜搬出することを繰り返して遺物の検出に努めたところ、調査範囲の中央部南寄りの1地点（3D53グリッド）、及び東端に近い3地点（2E79、2F81、3F31の各グリッド）の計4地点から石器類が出土した。出土した周囲を拡張して精査したところ、2地点（3D53、2E79グリッド）については追加の出土がなかったため、確認調査の段階で調査を終了した。

残りの2地点（2F81、3F31グリッド）については、最初に出土したものと同様の黒曜石製の石器類がそれぞれ複数点追加出土し、さらにその分布が周囲に広がること、2地点はもともと1つの広がりの中で捉えられることが判明したため、より広範囲を対象とする下層本調査に移行した。

下層本調査では、出土位置と点数・重量の統計・分析等に資するため、出土する石器類の取上げは全点ドットを原則とした。ところが、出土するのはわずか数ミリの非常に細かい黒曜石の破片がほとんどであり、本調査の早い段階には排土中から採集されたものもあった。そのため、本調査範囲内の4m×4m方眼の小グリッドを2m×2m方眼のグリッドに4分割し、かつ慎重に調査を進めることにした。2m×2mのグリッドは、北西隅より時計回りにアルファベット小文字でa・b・c・dとしたので、最小単位のグリッドの名称は、3F03 a、3F11 c…というような5桁の英数字で表されることとなった。



第2図 遺構の分布、トレンチ・グリッドの配置、基本層序

また、下層本調査範囲の精査に伴って、3F 42グリッドより縄文時代の陥穴（SK003）を検出したため、併せて調査を実施した。

なお、今回の調査では発掘作業・整理作業の各工程において記録のデジタル化に取り組んだ。発掘作業では、当財団が平成23年度より順次導入を進めている遺構実測支援システム（株式会社ソキア・トプコン製 追尾式トータルステーション SRX5XS + 株式会社CUBIC製「遺構くん Cubic」）を使用して、各種の図化・記録作業を行った。実際に作成した図面は、調査対象範囲図をはじめとして、トレンチ及びグリッド配置図、個別の遺構平面図、遺物出土分布図、基本土層のセクション図等に及ぶ。加えて、遺物出土分布図を除き、平板実測等の従来の方法における実測作業も併行して行い、整理作業時の検証・補完材料とした。また、調査に係る写真撮影についてもデジタルカメラでの記録と従来のフィルム写真での記録とを併行して行った。整理作業では、出土遺物のデジタル写真撮影及び Adobe 社製の Illustrator、Photoshop、InDesign による編集作業を行った。



第3図 記録のデジタル化（上段左：遺構の測量、右：遺物の取り上げ／下段左：挿図の作成、右：図版の作成）

第2節 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置と地形（第2・4図、図版1・2）

角山遺跡は、袖ヶ浦市蔵波字角山2938ほかに所在する。その位置は、JR内房線長浦駅から南へ約2.2km、同袖ヶ浦駅からは東へ約3.6kmの地点に当たる。現況では広々とした畑地と雑木林に囲まれ、長閑な里山里山風景が広がっているものの、宅地造成事業をはじめとする都市化の波は次第に遺跡周辺にも及びつつある。

袖ヶ浦市の地形は、下総台地南端部の袖ヶ浦台地と呼ばれる台地と、その南側に広がる小櫃川によって形成された沖積低地に大きく区分される。袖ヶ浦台地は、いずれも清澄山系に源を発し東京湾に注ぎ込む小櫃川と養老川という2つの河川に挟まれて北西から南東方向に細長く広がり、いくつもの小河川の浸食作用によって開析谷が樹枝状に発達した複雑な地形を呈している。

角山遺跡は、小櫃川の下流域右岸に位置し、沖積低地に面した標高約40mを測る袖ヶ浦台地上に立地する。袖ヶ浦公園の大部分を占める上地（＝灌漑用溜池）から北東に延びる小支谷の谷頭部を臨む台地上にあり、谷頭部のある南西方向に向かってわずかに傾斜している。

今回の対象範囲の調査直前の状況は、雑草が生い茂る荒蕪地が大部分を占め、東寄りの部分には大きなビニルハウスが2棟並んで設置されていた。荒蕪地になる前は大部分が畑地だったらしく、かつて耕作をしていた方から聞いた話では、「東から西に向かって徐々に低くなる土地だった」が、ビニルハウスを建てる際に、「すぐ西側の土を一部剥き取り、その土で平らな面を作った。」とのことだった。

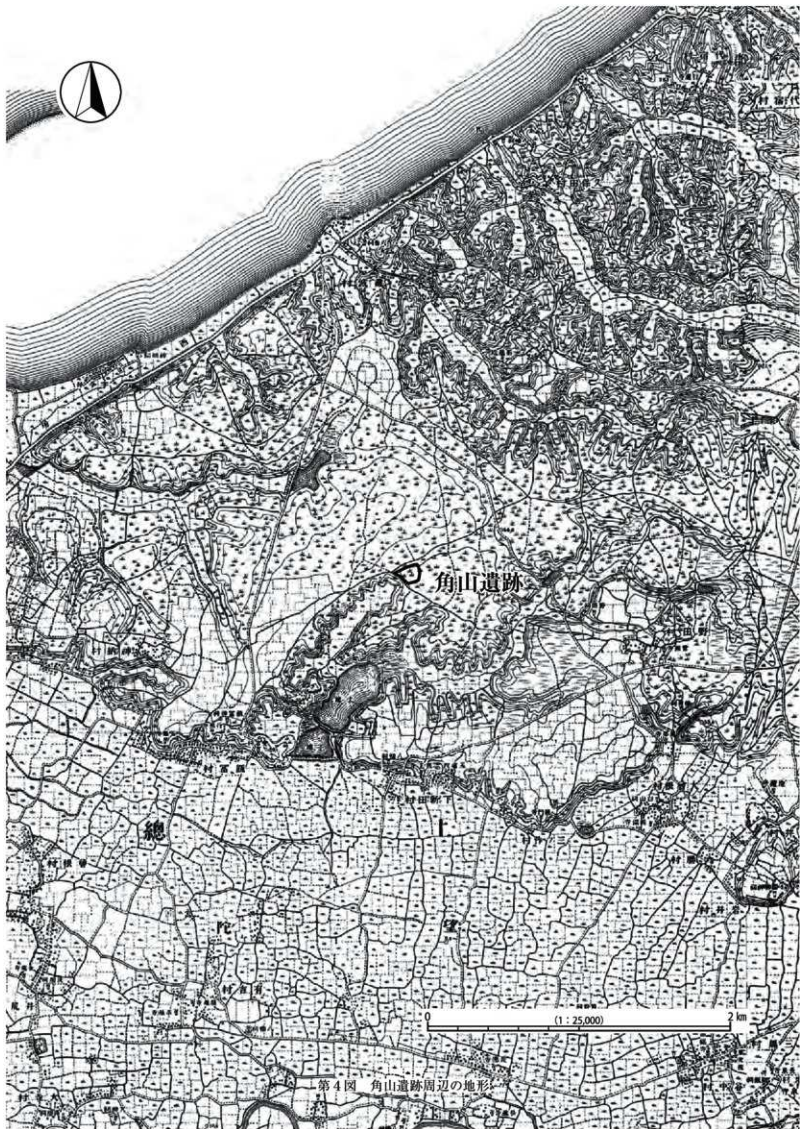
確かに、後に上層確認調査のために設定した23・24・25トレンチと26・27・28トレンチの間には、ほぼ南北方向に調査範囲を縦断する1mほどの不自然な段差があり、26・27・28トレンチの東側のビニルハウスを撤去した跡地には一段高く造成された平坦面が広がっていた。

上層確認調査では、谷頭部に近い調査範囲西寄りの一部のトレンチで、表土下にⅡb・Ⅱc層と呼ばれる黒色土・暗褐色土の堆積が確認されたのに対し、東側の大部分のトレンチの表土（耕作土）下には、立川ローム層のソフトローム層に当たるⅢ層がいきなり露出し、Ⅱb・Ⅱc層は既に失われていた。このことは、「東から西に向かって徐々に低くなる土地」の標高の高い東側部分が、後世の畑地耕作等により平坦化された結果と思われる。

また、「徐々に低くなる」傾斜の度合いは、約200m離れた調査範囲の東西両端で、現地表面では谷頭部のある南西方向に向かって1m未満の標高差だが、調査範囲の北東隅に近い2E38グリッドと南西隅に近い4A07グリッドとで比較すると、立川ローム層のソフトローム層であるⅢ層下面では1.5mほど、立川ローム層最下層のX層と武蔵野ローム層最上層の境界面では1.8mほど、それぞれ谷頭のある南西方向に向かって低くなっていることが判明した。

2. 周辺の主な遺跡（第5図）

角山遺跡の周辺は、樹枝状に開析された支谷が発達し、その台地上には数多くの遺跡が所在している。旧石器時代の遺跡では、本遺跡の北西約700mには、立川ローム層のⅢ層下部からⅣ層上部にかけて、ナイフ形石器と槍先形尖頭器を含む3か所の石器集中箇所が検出された百々目B遺跡（第5図4）がある。同じく、北西約1.0kmには、立川ローム層のⅢ層中～上部にかけて、153点の石器と51点の礫が出土した向萩原遺跡（同図3）がある。石器は小型の尖頭器、石材は黒曜石を主体としている。さらに、北西



第4図 角山遺跡周辺の地形

約1.6kmには、立川ローム層のⅢ層上部で槍先形尖頭器を主体とする石器集中箇所が、Ⅳ層下部でナイフ形石器を主体とする石器集中箇所が、それぞれ1か所ずつ検出された雷塚遺跡（同図2）がある。

縄文時代の遺跡では、本遺跡と市道を挟んで北西に隣接して、称名寺Ⅱ式から驅之内Ⅰ式にかけての柄鏡形住居跡2軒などが検出された伊丹山遺跡（同図6）がある。同じく、西側隣接地には、東西約140m×南北約110mの範囲に相弧状に広がる貝層を中心として、その外縁部から外側にかけて集落の展開が想定される山野貝塚（同図7）がある。さらに、やや離れて北方向には中～後期の包蔵地である伊丹山A遺跡（同図5）が、南西方向には後期の包蔵地である向山野遺跡（同図8）があり、これらの遺跡が遺跡群を形成していたと考えられている。また、上池を挟んだ対岸の台地上にも、根形台遺跡群（下新田遺跡群・同図14）と総称される中に、宮ノ越貝塚（同図12）、西ノ窪遺跡（同図11）、境（No2）遺跡（同図13）があり、縄文時代後期前半には貝塚を中心とした2つの遺跡群が近接して存在していた可能性が考えられている。

袖ヶ浦台地上及び小櫃川・養老両河川の流域には、いわゆる鎌倉街道に関わる伝承が多く点在する。本遺跡の東南東約2.0kmには、東関東自動車道等に係る発掘調査で中世の道路状遺構及び市跡あるいは宿跡と思われる遺構が検出された袖ヶ浦市山谷遺跡（同図15）がある。山谷遺跡を貫くように東西に延びる鎌倉街道は下新田・立野ルートと呼ばれ、山谷遺跡から西方へ約2.0km、本遺跡からは南方へ約1.2kmにある下新田八幡神社（同図10）の付近まで続く古道跡が知られている。また、上池の西側台地上、本遺跡から南西方向へ約1.5kmには、上総国延喜式内社5社の1つである飽富神社（既富神社・同図9）があり、その西側を鎌倉街道の大寺・蔵波ルートが南北に延びている。そのほか、蔵波ルート、蔵波・長浦ルートをはじめ、各ルートから分かれる支道を含め、本遺跡周辺には幾筋もの古道跡の存在が確定されている。

3. 角山遺跡の調査歴

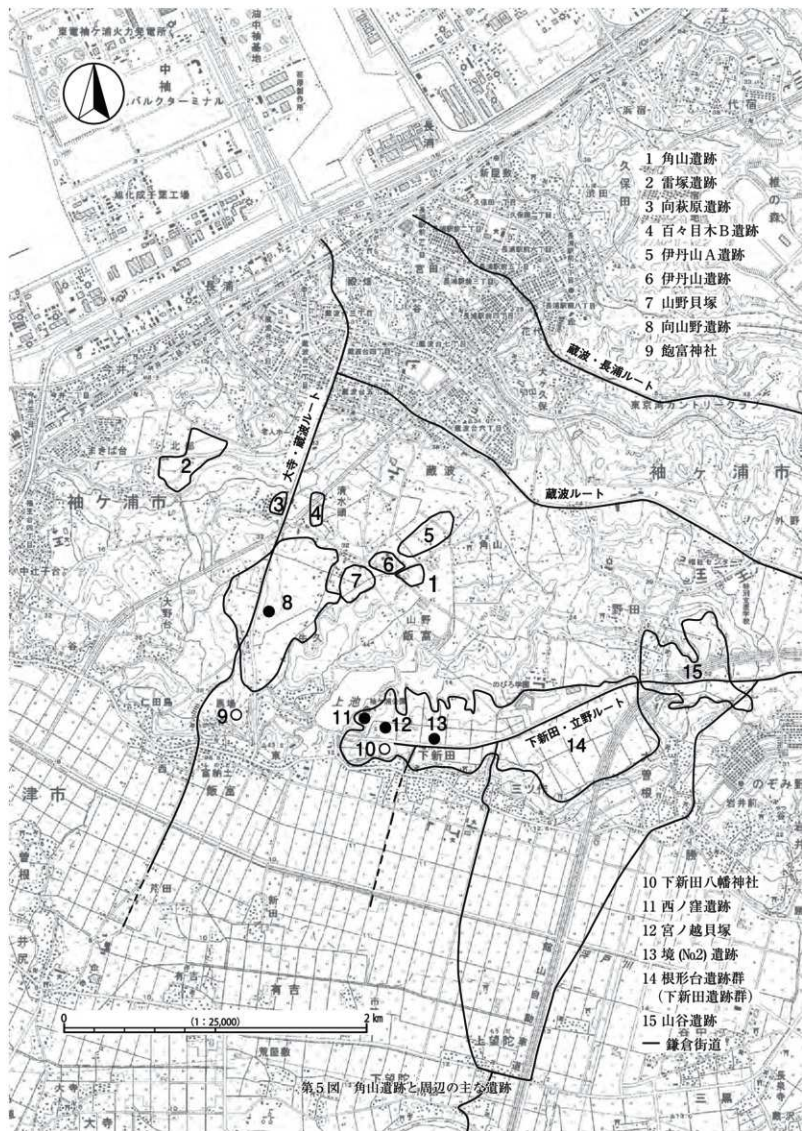
角山遺跡は、大きく分けて過去に2回の発掘調査歴を持つ。ここでは、それらを便宜的に第1次調査、第2次調査と呼ぶ。

第1次調査は、昭和53年2・3月に君津郡市広域市町村圏事務組合広域水道局によって行われた試掘調査、及びその成果を受けて同年6月に君津広域水道企業団によって行われた本調査である。前節で触れた北部調整池3号池及び第4中継ポンプ場の建設工事に伴う調査であり、調査対象範囲は今回の調査対象範囲の南側隣接地で、南西に小支谷の谷頭部を臨む位置にある。

調査の結果、縄文時代早期の炉穴5基と土坑2基、時期不明の溝状遺構・道状遺構を検出し、縄文時代後期・称名寺式土器を主体として、早期・摺糸文系土器から晩期・安行Ⅲ式、弥生時代後期の土器が出土した。

第2次調査は、平成22年5月に袖ヶ浦市教育委員会によって行われたもので、西側に隣接する山野貝塚の集落及び関連遺構の展開範囲を確認するための調査である。調査対象範囲は今回の調査対象範囲を含む9,290㎡で、畑の耕作等に影響のない部分に任意に設定された12か所のトレンチによる調査である。

調査の結果、調査対象範囲のほぼ中央に当たる10トレンチで溝状遺構を確認し、中央やや東寄りから西側にかけて設定した複数のトレンチから縄文時代後期・称名寺式を含む縄文土器の小片が少量出土した。



第2章 検出した遺構と遺物

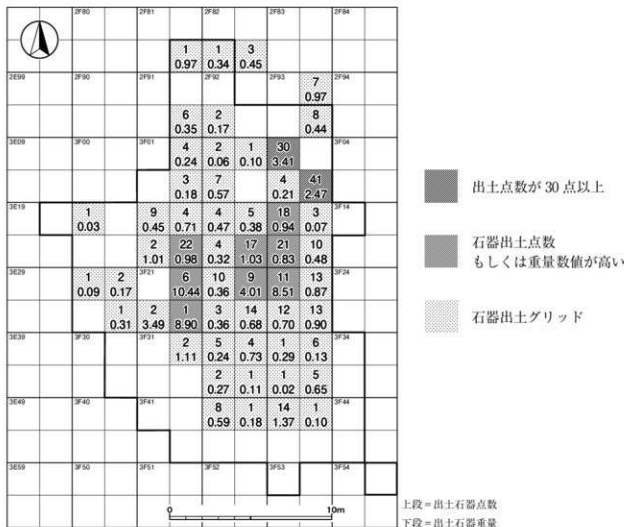
第1節 旧石器時代（第2・6～11図、表1、図版3・6）

角山遺跡では、第3次調査に当たる今回、旧石器時代を対象とした下層の確認調査及び本調査を初めて行った。その結果、調査範囲の南東端に石器集中地点（「3F 21 周辺石器集中地点」と呼ぶ）が1か所、東端寄り及び中央部南寄りに石器出土地点が各1地点（それぞれ「2E 79 石器出土地点」、「3D 53 石器出土地点」と呼ぶ）の計3地点から石器等が出土した。出土位置の東側のものから順に報告する。

3F 21 周辺石器集中地点

調査範囲南東端の3F 21 グリッドを中心としてその周辺に位置する。

本集中地点の調査は、南北に12m離れた2か所の確認グリッドより石器が出土したことから始まった。南側は、3F 31 b グリッド内で石器が2点出土したため、4m×4mに拡張して周囲を精査したところ、石器5点、礫3点、計8点の追加出土があった。一方、北側は2F 81 c グリッド内で石器が1点出土したため、同様に4m×4mに拡張して周囲を精査したところ、4点の石器の追加出土があった。その後、周辺にグリッドを追加して出土範囲の特定に努め、両地点を含む330㎡の本調査範囲を決定した。



第6図 3F 21 周辺黒曜石の出土分布

本調査の結果、範囲内からは石器 388 点、礫 7 点、軽石片 1 点の計 396 点が混在して出土した⁽¹⁾。

388 点の石器は、剥片 7 点、横長剥片 4 点、二次加工ある剥片 1 点、砕片⁽²⁾ 376 点に分類できた。出土した石器の 97% を占める砕片は、平均計測値が最大長 6.95mm、重量 0.07 g⁽³⁾ と非常に細かいものばかりである。石器石材はすべて黒曜石で、いずれも透明感のない漆黒色の地に灰褐色の細かい縞模様が見られる。また、斑晶が無数に混入しており、質はあまりよくない。ほとんどすべてが被熱している。

石器の出土面は、立川ローム層のソフトローム層であるⅢ層中にあり、垂直分布ではⅢ層中～上部にかけての部分に集中する。また、平面分布では南北 27 m × 東西 15 m の範囲に広がり、55 グリッド (2 m × 2 m グリッド) から出土している。接合例は認められなかった。

グリッド別に出土点数を比較すると、3 F 03 c グリッドの 41 点が最も多く、3 F 03 a の 30 点、3 F 11 c の 22 点、3 F 13 d の 21 点、3 F 13 a の 18 点、3 F 12 c の 17 点と続き、出土範囲の中央部東寄りに分布が偏っている。2 m × 2 m グリッド中の出土点数としてはどれも決して多くない数字だが、1 点のみ出土のグリッドが 12 グリッドと最も多く、10 点以下のグリッドが 43 グリッドと全体の約 8 割を占める散漫な出土状況の中では突出している感がある。

次に、出土重量を比較すると、3 F 21 b グリッドの 10.44 g が最も重く、3 F 21 c の 8.90 g、3 F 23 a の 8.51 g、3 F 22 b の 4.01 g、3 F 21 d の 3.49 g、3 F 03 a の 3.41 g、3 F 03 c の 2.47 g と続き、残りは 1 g 台が 4 グリッドあるのを除くと、1 g 未満のグリッドが 44 グリッドとやはり全体の 8 割を占めている。出土点数が 1 番目と 2 番目に多かった 3 F 03 c・a グリッドを除くと、重量の重いグリッドの分布は、出土点数の多いグリッドの南側に広がる傾向にある。

礫 7 点は、3 F 21 b・c (各 2 点)、3 F 22 a・31 b・43 a (各 1 点) とほとんどが石器集中範囲の南寄りに近いグリッドから出土した。石材は、砂岩・流紋岩 (各 3 点)、チャート (1 点) で、いずれも在地の石材である。接合例は認められなかった。長さ 6.5cm、重量 77.2 g の最も大きな流紋岩を除くと、長さ 1.9cm、重量 1.8 g の砂岩まで、小型の破砕礫ばかりである。石器同様、すべて被熱している。

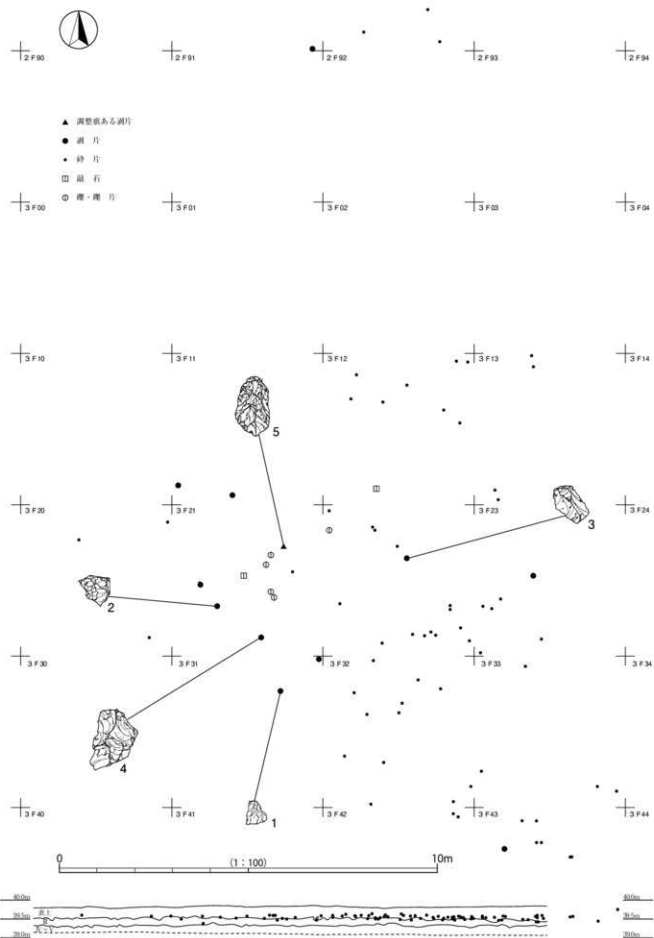
出土した石器のうち、横長剥片 4 点及び二次加工ある剥片 1 点の計 5 点を図化した。

1 は左半部が欠損した横長剥片である。3 F 31 b グリッド出土で、長さ 15cm、幅 1.4cm、厚さ 0.4cm、重量 0.8 g を測る。2 は横長剥片の断片である。3 F 21 d グリッド出土で、長さ 2.1cm、幅 2.0cm、厚さ 0.9cm、重量 2.9 g を測る。3 は基部が欠損した横長剥片である。先端部に平坦な自然面が残存している。3 F 22 b グリッド出土で、長さ 2.5cm、幅 2.2cm、厚さ 0.8cm、重量 3.5 g を測る。4 はほぼ完形の横長剥片である。先端部は腹面に向かって内湾している。上下両端には平坦な剥離打面が残存している。3 F 21 c グリッド出土で、長さ 4.0cm、幅 2.9cm、厚さ 0.7cm、重量 8.9 g を測る。5 は完形の二次加工ある剥片である。本遺跡で唯一の利器で、正面には全周にわたって二次加工が施され、裏面には自然面が大きく残存している。二次加工ある剥片として報告したが、小型の槍先形尖頭器の未成品の可能性もある。3 F 21 b グリッド出土で、長さ 3.8cm、幅 2.3cm、厚さ 1.5cm、重量 10.1 g を測る。

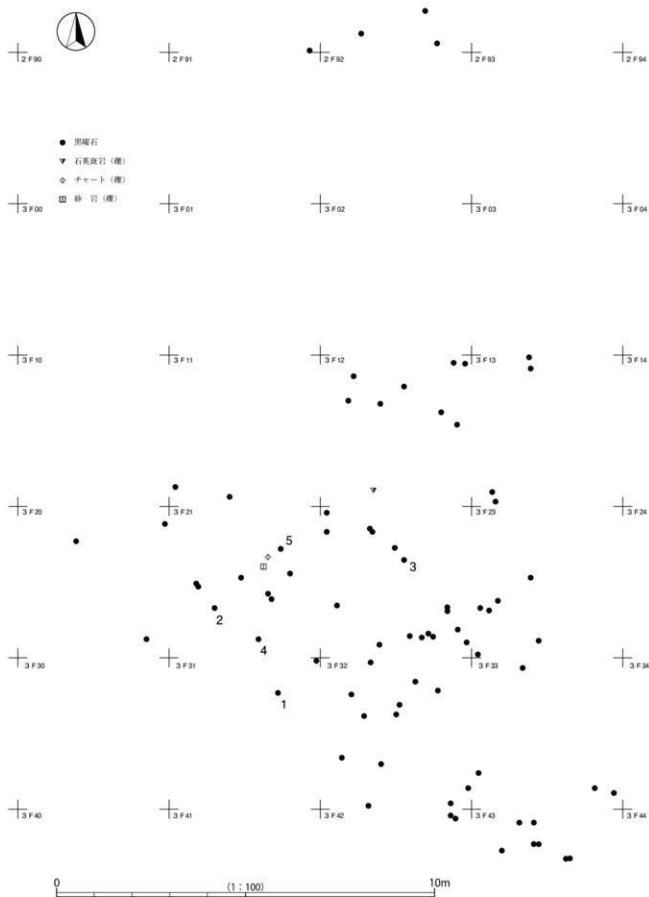
2 E 79 石器出土地点

調査範囲の東端寄りに位置する。確認グリッドの南西隅で石器が 1 点出土した。周囲を拡張して精査したが追加出土はなく、確認調査の段階で調査を終了した。出土面は立川ローム層のⅨ A 層である。

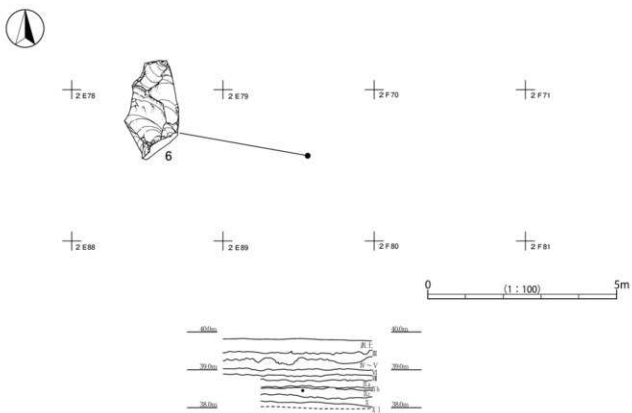
6 は完形の縦長剥片である。平坦な両設打面を有し、正面右側縁に自然面を大きく残している。長さ 6.3cm、幅 3.4cm、厚さ 1.9cm、重量 36.5 g を測る。石材は珪質頁岩である。



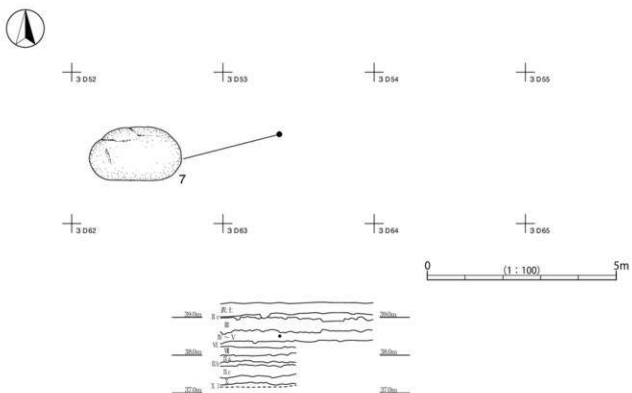
第7図 3F21 周辺遺物出土状況 (器種別)



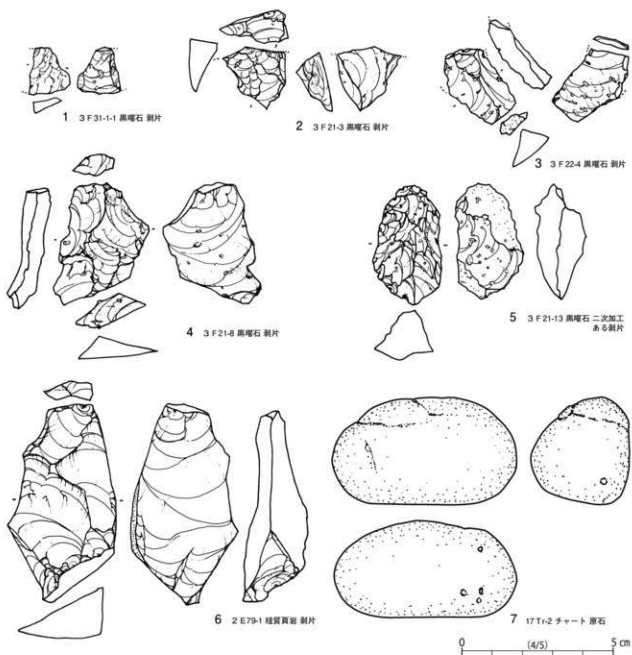
第8図 3F21 周辺遺物出土状況 (石材別)



第9图 2E79石器出土状况



第10图 3D53石器出土状况



第11図 旧石器時代の石器

3 D53 石器出土地点

調査範囲の中央部南寄りに位置する。確認グリッドの東寄りで石器が1点出土した。隣接するグリッドを拡張して精査したが追加出土はなく、確認調査の段階で調査を終了した。出土面は立川ローム層のⅣ層～Ⅴ層である。

7はチャートの原石である。表面に複数の敲打痕が認められる。長さ3.6cm、幅6.0cm、厚さ3.2cm、重量101.5gを測る。

表1 旧石器時代の石器属性

No	ノリ 番号	遺物 番号	材質	形状	名称	長さ (mm)	重量 (g)	状態	備考
1	2P79c	1	貝質頁岩	剥片	630	36.30	○	第1図6	
2	2P81c	2	黒曜石	剥片	22.26	0.97	○		
3	2P82c	2	黒曜石	剥片	8.64	0.21	○		
4	2P82c	2	黒曜石	剥片	5.78	0.05	○		
5	2P82c	3	黒曜石	剥片	7.76	0.19	○		
6	2P82c	1	黒曜石	剥片	11.61	0.31	○		
7	2P91c	2	黒曜石	剥片	7.43	0.12	○		
8	2P91c	2	黒曜石	剥片	7.36	0.11	○		
9	2P91c	2	黒曜石	剥片	6.93	0.07	○		
10	2P91c	2	黒曜石	剥片	5.42	0.03	○		
11	2P91c	2	黒曜石	剥片	3.66	0.02	○		
12	2P91c	2	黒曜石	剥片	4.47	0.09	○		
13	2P92d	2	黒曜石	剥片	9.44	0.17	○		
14	2P92d	2	黒曜石	剥片	5.16	0.00	○		
15	2P92b	1	黒曜石	剥片	8.75	0.13	○		
16	2P92b	1	黒曜石	剥片	9.42	0.11	○		
17	2P92b	1	黒曜石	剥片	10.17	0.02	○		
18	2P92b	1	黒曜石	剥片	8.59	0.14	○		
19	2P92b	1	黒曜石	剥片	7.80	0.03	○		
20	2P92b	1	黒曜石	剥片	5.78	0.02	○		
21	2P92b	1	黒曜石	剥片	8.89	0.00	○		
22	2P92c	2	黒曜石	剥片	9.36	0.19	○		
23	2P92c	2	黒曜石	剥片	6.56	0.03	○		
24	2P92c	2	黒曜石	剥片	10.69	0.14	○		
25	2P92c	2	黒曜石	剥片	8.58	0.02	○		
26	2P92c	2	黒曜石	剥片	9.66	0.08	○		
27	2P92c	2	黒曜石	剥片	6.15	0.04	○		
28	2P92c	2	黒曜石	剥片	5.09	0.03	○		
29	2P92c	2	黒曜石	剥片	5.25	0.00	○		
30	3P01b	2	1	黒曜石	剥片	5.83	0.14	○	
31	3P01b	2	2	黒曜石	剥片	4.94	0.05	○	
32	3P01b	2	3	黒曜石	剥片	4.71	0.03	○	
33	3P01b	2	4	黒曜石	剥片	6.26	0.02	○	
34	3P01c	3	1	黒曜石	剥片	8.25	0.06	○	
35	3P01c	3	2	黒曜石	剥片	5.75	0.05	○	
36	3P01c	3	3	黒曜石	剥片	7.32	0.07	○	
37	3P02a	1	1	黒曜石	剥片	9.67	0.06	○	
38	3P02a	1	2	黒曜石	剥片	3.69	0.00	○	
39	3P02c	4	1	黒曜石	剥片	7.64	0.19	○	
40	3P02d	2	1	黒曜石	剥片	10.09	0.25	○	
41	3P02d	2	2	黒曜石	剥片	3.95	0.05	○	
42	3P02d	2	3	黒曜石	剥片	7.31	0.13	○	
43	3P02d	2	4	黒曜石	剥片	7.21	0.07	○	
44	3P02d	2	5	黒曜石	剥片	6.27	0.03	○	
45	3P02d	2	6	黒曜石	剥片	6.50	0.04	○	
46	3P02d	2	7	黒曜石	剥片	4.79	0.00	○	
47	3P02a	3	1	黒曜石	剥片	8.91	0.25	○	
48	3P02a	3	2	黒曜石	剥片	10.99	0.57	○	
49	3P02a	3	3	黒曜石	剥片	15.52	0.34	○	
50	3P02a	3	4	黒曜石	剥片	11.33	0.34	○	
51	3P02a	3	5	黒曜石	剥片	8.58	0.11	○	
52	3P02a	3	6	黒曜石	剥片	9.52	0.14	○	
53	3P02a	3	7	黒曜石	剥片	8.20	0.11	○	
54	3P02a	3	8	黒曜石	剥片	7.74	0.09	○	
55	3P02a	3	9	黒曜石	剥片	8.65	0.06	○	
56	3P02a	3	10	黒曜石	剥片	8.05	1.11	○	
57	3P02a	3	11	黒曜石	剥片	6.23	0.03	○	
58	3P02a	3	12	黒曜石	剥片	8.71	0.07	○	
59	3P02a	3	13	黒曜石	剥片	9.22	0.03	○	
60	3P02a	3	14	黒曜石	剥片	7.28	0.02	○	
61	3P02a	3	15	黒曜石	剥片	6.95	0.08	○	
62	3P02a	3	16	黒曜石	剥片	5.22	0.03	○	
63	3P02a	3	17	黒曜石	剥片	4.21	0.00	○	
64	3P02a	3	18	黒曜石	剥片	4.54	0.00	○	
65	3P02a	3	19	黒曜石	剥片	5.89	0.00	○	
66	3P02a	3	20	黒曜石	剥片	3.68	0.00	○	
67	3P02a	3	21	黒曜石	剥片	4.09	0.03	○	
68	3P02a	3	22	黒曜石	剥片	4.15	0.00	○	
69	3P02a	3	23	黒曜石	剥片	6.87	0.00	○	
70	3P02a	3	24	黒曜石	剥片	3.50	0.00	○	
71	3P03a	3	25	黒曜石	剥片	3.32	0.00	○	
72	3P03a	3	26	黒曜石	剥片	2.88	0.00	○	
73	3P03a	3	27	黒曜石	剥片	2.74	0.00	○	
74	3P03a	3	28	黒曜石	剥片	3.07	0.00	○	
75	3P03a	3	29	黒曜石	剥片	1.84	0.00	○	
76	3P03a	3	30	黒曜石	剥片	2.53	0.00	○	
77	3P03a	2	1	黒曜石	剥片	8.81	0.20	○	
78	3P03a	2	2	黒曜石	剥片	11.53	0.33	○	
79	3P03a	2	3	黒曜石	剥片	9.85	0.17	○	
80	3P03a	2	4	黒曜石	剥片	9.44	0.19	○	
81	3P03a	2	5	黒曜石	剥片	6.27	0.15	○	
82	3P03a	2	6	黒曜石	剥片	10.28	0.21	○	
83	3P03a	2	7	黒曜石	剥片	11.42	0.17	○	
84	3P03a	2	8	黒曜石	剥片	6.62	0.13	○	
85	3P03a	2	9	黒曜石	剥片	10.02	0.13	○	
86	3P03a	2	10	黒曜石	剥片	9.53	0.12	○	
87	3P03a	2	11	黒曜石	剥片	9.39	0.09	○	
88	3P03a	2	12	黒曜石	剥片	6.55	0.04	○	
89	3P03a	2	13	黒曜石	剥片	5.31	0.07	○	
90	3P03a	2	14	黒曜石	剥片	6.01	0.03	○	
91	3P03a	2	15	黒曜石	剥片	7.44	0.03	○	
92	3P03a	2	16	黒曜石	剥片	7.12	0.05	○	
93	3P03a	2	17	黒曜石	剥片	7.99	0.00	○	
94	3P03a	2	18	黒曜石	剥片	7.35	0.04	○	
95	3P03a	2	19	黒曜石	剥片	7.34	0.03	○	
96	3P03a	2	20	黒曜石	剥片	6.21	0.03	○	
97	3P03a	2	21	黒曜石	剥片	7.25	0.05	○	
98	3P03a	2	22	黒曜石	剥片	7.91	0.02	○	
99	3P03a	2	23	黒曜石	剥片	7.50	0.00	○	
100	3P03a	2	24	黒曜石	剥片	5.62	0.00	○	
101	3P03a	2	25	黒曜石	剥片	7.18	0.02	○	
102	3P03a	2	26	黒曜石	剥片	7.85	0.00	○	
103	3P03a	2	27	黒曜石	剥片	6.20	0.00	○	
104	3P03a	2	28	黒曜石	剥片	4.40	0.00	○	
105	3P03a	2	29	黒曜石	剥片	4.14	0.00	○	
106	3P03a	2	30	黒曜石	剥片	6.94	0.00	○	
107	3P03a	2	31	黒曜石	剥片	4.16	0.00	○	
108	3P03a	2	32	黒曜石	剥片	4.09	0.00	○	
109	3P03a	2	33	黒曜石	剥片	5.01	0.00	○	
110	3P03a	2	34	黒曜石	剥片	5.53	0.00	○	
111	3P03a	2	35	黒曜石	剥片	6.00	0.00	○	
112	3P03a	2	36	黒曜石	剥片	3.59	0.00	○	
113	3P03a	2	37	黒曜石	剥片	8.44	0.01	○	
114	3P03a	2	38	黒曜石	剥片	6.15	0.00	○	
115	3P03a	2	39	黒曜石	剥片	5.60	0.00	○	
116	3P03a	2	40	黒曜石	剥片	4.30	0.00	○	
117	3P03a	2	41	黒曜石	剥片	4.30	0.00	○	
118	3P03d	1	1	黒曜石	剥片	11.48	0.12	○	
119	3P03d	1	2	黒曜石	剥片	9.77	0.07	○	
120	3P10d	1	1	黒曜石	剥片	4.70	0.02	○	
121	3P03d	1	4	黒曜石	剥片	6.45	0.00	○	
122	3P10b	1	1	黒曜石	剥片	6.39	0.03	○	
123	3P11a	1	1	黒曜石	剥片	6.59	0.12	○	
124	3P11a	1	2	黒曜石	剥片	6.29	0.12	○	
125	3P11a	1	3	黒曜石	剥片	6.53	0.03	○	
126	3P11a	1	4	黒曜石	剥片	7.85	0.06	○	
127	3P11a	1	5	黒曜石	剥片	5.24	0.04	○	
128	3P11a	1	6	黒曜石	剥片	5.93	0.08	○	
129	3P11a	1	7	黒曜石	剥片	4.85	0.00	○	
130	3P11a	1	8	黒曜石	剥片	3.31	0.00	○	
131	3P11a	1	9	黒曜石	剥片	3.26	0.00	○	
132	3P11b	2	1	黒曜石	剥片	10.02	0.41	○	
133	3P11b	2	2	黒曜石	剥片	9.40	0.03	○	
134	3P11b	2	3	黒曜石	剥片	8.84	0.13	○	
135	3P11b	2	4	黒曜石	剥片	11.47	0.14	○	
136	3P11c	6	1	黒曜石	剥片	7.57	0.17	○	
137	3P11c	6	2	黒曜石	剥片	6.70	0.13	○	
138	3P11c	6	3	黒曜石	剥片	9.12	0.14	○	
139	3P11c	6	4	黒曜石	剥片	11.62	0.12	○	
140	3P11c	6	5	黒曜石	剥片	8.66	0.03	○	

No	戸号 番号	建物の 番号	棟 号	材質	名称	長さ (mm)	重量 (g)	状態	備考
141	3F11c	6	6	黒曜石	砕片	1034	0.02	○	
142	3F11c	6	7	黒曜石	砕片	673	0.03	○	
143	3F11c	6	8	黒曜石	砕片	800	0.13	○	
144	3F11c	6	9	黒曜石	砕片	532	0.00	○	
145	3F11c	6	10	黒曜石	砕片	787	0.07	○	
146	3F11c	6	11	黒曜石	砕片	606	0.05	○	
147	3F11c	6	12	黒曜石	砕片	650	0.04	○	
148	3F11c	6	13	黒曜石	砕片	772	0.05	○	
149	3F11c	6	14	黒曜石	砕片	594	0.00	○	
150	3F11c	6	15	黒曜石	砕片	576	0.00	○	
151	3F11c	6	16	黒曜石	砕片	415	0.00	○	
152	3F11c	6	17	黒曜石	砕片	702	0.00	○	
153	3F11c	6	18	黒曜石	砕片	443	0.00	○	
154	3F11c	6	19	黒曜石	砕片	636	0.00	○	
155	3F11c	6	20	黒曜石	砕片	444	0.00	○	
156	3F11c	6	21	黒曜石	砕片	414	0.00	○	
157	3F11c	6	22	黒曜石	砕片	308	0.00	○	
158	3F11d	3	1	黒曜石	調片	1530	0.87	?	
159	3F11d	4	1	黒曜石	調片	1129	0.14	○	
160	3F12a	1	1	黒曜石	砕片	742	0.13	○	
161	3F12a	2	2	黒曜石	砕片	789	0.04	○	
162	3F12a	3	3	黒曜石	砕片	1332	0.30	○	
163	3F12a	13	13	黒曜石	砕片	326	0.00	○	
164	3F12b	4	1	黒曜石	砕片	949	0.07	○	
165	3F12b	5	1	黒曜石	砕片	704	0.05	?	
166	3F12b	6	1	黒曜石	砕片	830	0.10	○	
167	3F12b	7	1	黒曜石	砕片	835	0.06	○	
168	3F12b	8	1	黒曜石	砕片	902	0.10	○	
169	3F12c	11	1	黒曜石	砕片	1254	0.44	○	
170	3F12c	11	2	黒曜石	砕片	1021	0.22	○	
171	3F12c	11	3	黒曜石	砕片	1021	0.14	○	
172	3F12c	11	4	黒曜石	砕片	557	0.10	○	
173	3F12c	11	5	黒曜石	砕片	661	0.03	○	
174	3F12c	11	6	黒曜石	砕片	738	0.04	○	
175	3F12c	11	7	黒曜石	砕片	490	0.00	○	
176	3F12c	11	8	黒曜石	砕片	601	0.00	○	
177	3F12c	11	9	黒曜石	砕片	575	0.03	○	
178	3F12c	11	10	黒曜石	砕片	444	0.03	○	
179	3F12c	11	11	黒曜石	砕片	379	0.00	○	
180	3F12c	11	12	黒曜石	砕片	328	0.00	○	
181	3F12c	11	13	黒曜石	砕片	251	0.00	○	
182	3F12c	11	14	黒曜石	砕片	319	0.00	○	
183	3F12c	11	15	黒曜石	砕片	312	0.00	○	
184	3F12c	11	16	黒曜石	砕片	327	0.00	○	
185	3F12c	11	17	黒曜石	砕片	336	0.00	○	
186	3F12d	9	1	黒曜石	砕片	1193	0.27	○	
187	3F12d	9	2	黒曜石	砕片	731	0.05	○	
188	3F12d	9	3	黒曜石	砕片	552	0.09	○	
189	3F12d	14	1	黒曜石	砕片	489	0.00	○	
190	3F13a	1	1	黒曜石	砕片	826	0.31	○	
191	3F13a	1	2	黒曜石	砕片	809	0.12	○	
192	3F13a	4	1	黒曜石	砕片	507	0.05	○	
193	3F13a	1	5	黒曜石	砕片	877	0.02	○	
194	3F13a	1	6	黒曜石	砕片	744	0.07	○	
195	3F13a	1	7	黒曜石	砕片	656	0.03	○	
196	3F13a	1	8	黒曜石	砕片	640	0.02	○	
197	3F13a	1	9	黒曜石	砕片	806	0.02	○	
198	3F13a	1	10	黒曜石	砕片	398	0.02	○	
199	3F13a	1	11	黒曜石	砕片	553	0.03	○	
200	3F13a	1	12	黒曜石	砕片	454	0.00	○	
201	3F13a	1	14	黒曜石	砕片	240	0.00	○	
202	3F13a	1	15	黒曜石	砕片	709	0.15	?	
203	3F13a	1	16	黒曜石	砕片	829	0.10	○	
204	3F13a	1	17	黒曜石	砕片	609	0.02	○	
205	3F13a	1	18	黒曜石	砕片	532	0.02	○	
206	3F13a	1	19	黒曜石	砕片	543	0.00	○	
207	3F13a	1	20	黒曜石	砕片	506	0.03	○	
208	3F13b	2	1	黒曜石	砕片	415	0.03	○	
209	3F13b	2	2	黒曜石	砕片	230	0.00	○	
210	3F13b	3	1	黒曜石	砕片	718	0.04	?	

No	戸号 番号	建物の 番号	棟 号	材質	名称	長さ (mm)	重量 (g)	状態	備考
211	3F13c	7	1	黒曜石	砕片	682	0.11	○	
212	3F13c	7	2	黒曜石	砕片	903	0.17	○	
213	3F13c	7	3	黒曜石	砕片	788	0.03	○	
214	3F13c	7	4	黒曜石	砕片	439	0.03	○	
215	3F13c	7	5	黒曜石	砕片	635	0.02	○	
216	3F13c	7	6	黒曜石	砕片	461	0.00	?	
217	3F13c	7	7	黒曜石	砕片	499	0.00	○	
218	3F13c	7	8	黒曜石	砕片	855	0.04	○	
219	3F13c	7	9	黒曜石	砕片	932	0.05	○	
220	3F13c	7	10	黒曜石	砕片	719	0.03	○	
221	3F13d	4	1	黒曜石	砕片	605	0.00	○	
222	3F13d	5	1	黒曜石	砕片	507	0.00	○	
223	3F13d	5	2	黒曜石	砕片	392	0.00	○	
224	3F13d	6	1	黒曜石	砕片	1078	0.24	○	
225	3F13d	6	2	黒曜石	砕片	1113	0.13	○	
226	3F13d	6	3	黒曜石	砕片	782	0.12	○	
227	3F13d	6	4	黒曜石	砕片	749	0.06	○	
228	3F13d	6	5	黒曜石	砕片	684	0.08	○	
229	3F13d	6	6	黒曜石	砕片	715	0.05	?	
230	3F13d	6	7	黒曜石	砕片	751	0.04	○	
231	3F13d	6	8	黒曜石	砕片	768	0.04	○	
232	3F13d	6	9	黒曜石	砕片	786	0.04	○	
233	3F13d	6	10	黒曜石	砕片	565	0.00	○	
234	3F13d	6	11	黒曜石	砕片	731	0.03	○	
235	3F13d	6	12	黒曜石	砕片	431	0.00	○	
236	3F13d	6	13	黒曜石	砕片	382	0.00	○	
237	3F13d	6	14	黒曜石	砕片	611	0.00	○	
238	3F13d	6	15	黒曜石	砕片	436	0.00	○	
239	3F13d	6	16	黒曜石	砕片	316	0.00	○	
240	3F13d	6	17	黒曜石	砕片	381	0.00	○	
241	3F13d	6	18	黒曜石	砕片	348	0.00	○	
242	3F20a	2	1	黒曜石	砕片	778	0.09	○	
243	3F20a	4	1	黒曜石	砕片	944	0.14	○	
244	3F20a	4	2	黒曜石	砕片	568	0.03	○	
245	3F20a	3	3	黒曜石	砕片	978	0.31	○	
246	3F21b	5	1	砕岩	塊	5026	2015	○	
247	3F21b	11	1	黒曜石	砕片	809	0.16	○	
248	3F21b	11	2	黒曜石	砕片	878	0.09	○	
249	3F21b	11	3	黒曜石	砕片	630	0.04	○	
250	3F21b	11	4	黒曜石	砕片	463	0.00	○	
251	3F21b	12	1	シート	塊	3628	1959	○	
252	3F21b	13	1	黒曜石	ある調片	380	10.10	?	第11図5
253	3F21b	15	1	黒曜石	調片	1394	0.05	○	
254	3F21c	6	1	砕岩	塊	1945	181	○	
255	3F21c	7	1	砕岩	塊	6522	717	○	
256	3F21c	8	1	黒曜石	調片	100	890	?	第11図4
257	3F21d	2	1	黒曜石	調片	1664	0.59	○	
258	3F21d	3	1	黒曜石	調片	210	290	○	第11図2
259	3F22a	13	1	黒曜石	砕片	769	0.00	○	
260	3F22a	13	2	黒曜石	砕片	636	0.00	○	
261	3F22a	14	1	砕岩	塊	5242	3337	?	
262	3F22a	15	1	黒曜石	砕片	749	0.11	○	
263	3F22a	15	2	黒曜石	砕片	335	0.00	?	
264	3F22a	16	1	黒曜石	砕片	863	0.12	○	
265	3F22a	16	2	黒曜石	砕片	507	0.04	○	
266	3F22a	17	1	黒曜石	砕片	538	0.02	○	
267	3F22a	17	2	黒曜石	砕片	919	0.03	○	
268	3F22a	17	4	黒曜石	砕片	612	0.02	○	
269	3F22a	19	1	黒曜石	砕片	532	0.02	○	
270	3F22b	3	1	黒曜石	砕片	938	0.20	○	
271	3F22b	2	2	黒曜石	砕片	558	0.15	○	
272	3F22b	2	3	黒曜石	砕片	714	0.04	○	
273	3F22b	2	4	黒曜石	砕片	413	0.03	○	
274	3F22b	2	5	黒曜石	砕片	622	0.04	○	
275	3F22b	2	6	黒曜石	砕片	743	0.03	?	
276	3F22b	2	7	黒曜石	砕片	768	0.02	○	
277	3F22b	2	8	黒曜石	砕片	613	0.00	○	
278	3F22d	4	1	黒曜石	調片	250	350	?	第11図3
279	3F22e	5	1	黒曜石	砕片	485	0.02	○	
280	3F22e	6	1	黒曜石	砕片	270	0.00	○	

No	戸号 番号	建物 番号	積 数	材質	名称	長さ (mm)	重量 (g)	熱 伝 導 係 数	備考
281	3F2a	7	1	黒曜石	砕片	10.82	0.01	○	
282	3F2a	8	1	黒曜石	砕片	12.22	0.39	○	
283	3F2a	9	1	黒曜石	砕片	7.35	0.16	○	
284	3F2a	10	1	黒曜石	砕片	4.12	0.00	○	
285	3F2a	10	2	黒曜石	砕片	4.84	0.00	○	
286	3F2a	10	3	黒曜石	砕片	4.08	0.00	○	
287	3F2a	10	4	黒曜石	砕片	4.19	0.00	×	
288	3F2a	10	5	黒曜石	砕片	3.96	0.00	○	
289	3F2a	10	6	黒曜石	砕片	3.19	0.00	○	
290	3F2a	11	1	黒曜石	砕片	6.89	0.02	○	
291	3F2a	18	1	黒曜石	砕片	7.48	0.05	○	
292	3F2a	20	2	黒曜石	砕片	3.75	0.00	○	
293	3F2a	3	1	黒曜石	砕片	13.00	0.18	○	
294	3F2a	3	2	黒曜石	砕片	8.72	0.04	○	
295	3F2a	12	1	黒曜石	砕片	9.29	0.14	○	
296	3F2a	11	1	黒曜石	砕片	10.10	0.37	○	
297	3F2a	2	1	黒曜石	調片	30.20	7.14	?	
298	3F2a	3	1	軒石	礎片	12.09	0.19	○	
299	3F2a	4	1	黒曜石	砕片	10.73	0.21	○	
300	3F2a	4	2	黒曜石	砕片	8.00	0.29	○	
301	3F2a	4	3	黒曜石	砕片	13.10	0.18	?	
302	3F2a	4	4	黒曜石	砕片	8.27	0.12	○	
303	3F2a	4	5	黒曜石	砕片	8.21	0.08	○	
304	3F2a	4	6	黒曜石	砕片	6.44	0.07	?	
305	3F2a	4	7	黒曜石	砕片	9.40	0.07	○	
306	3F2a	4	8	黒曜石	砕片	6.59	0.05	○	
307	3F2a	4	9	黒曜石	砕片	6.07	0.02	○	
308	3F2a	11	1	黒曜石	砕片	12.51	0.20	○	
309	3F2a	11	2	黒曜石	砕片	7.06	0.19	○	
310	3F2a	11	3	黒曜石	砕片	9.16	0.15	○	
311	3F2a	11	4	黒曜石	砕片	9.98	0.07	?	
312	3F2a	11	5	黒曜石	砕片	8.53	0.05	○	
313	3F2a	11	6	黒曜石	砕片	5.21	0.04	○	
314	3F2a	11	7	黒曜石	砕片	5.74	0.05	○	
315	3F2a	11	8	黒曜石	砕片	5.55	0.04	○	
316	3F2a	11	9	黒曜石	砕片	4.17	0.02	○	
317	3F2a	11	10	黒曜石	砕片	4.02	0.02	○	
318	3F2a	11	11	黒曜石	砕片	3.86	0.00	○	
319	3F2a	11	12	黒曜石	砕片	4.78	0.02	○	
320	3F2a	11	13	黒曜石	砕片	4.89	0.00	○	
321	3F2a	13	1	黒曜石	砕片	10.80	0.14	○	
322	3F2a	13	2	黒曜石	砕片	8.30	0.26	○	
323	3F2a	13	3	黒曜石	砕片	12.62	0.17	○	
324	3F2a	13	4	黒曜石	砕片	11.43	0.18	○	
325	3F2a	13	5	黒曜石	砕片	13.40	0.03	○	
326	3F2a	13	6	黒曜石	砕片	6.56	0.03	○	
327	3F2a	13	7	黒曜石	砕片	4.39	0.02	○	
328	3F2a	13	8	黒曜石	砕片	6.07	0.00	○	
329	3F2a	13	9	黒曜石	砕片	4.86	0.03	○	
330	3F2a	13	10	黒曜石	砕片	5.72	0.02	○	
331	3F2a	13	11	黒曜石	砕片	4.59	0.02	○	
332	3F2a	13	12	黒曜石	砕片	4.28	0.00	○	
333	3F2a	13	13	黒曜石	砕片	3.76	0.00	○	
334	3F2a	5	1	黒曜石	砕片	7.95	0.06	?	
335	3F2a	6	1	黒曜石	砕片	6.91	0.04	?	
336	3F2a	7	1	黒曜石	砕片	12.81	0.20	○	
337	3F2a	8	1	黒曜石	砕片	4.90	0.00	○	
338	3F2a	9	1	黒曜石	砕片	10.15	0.14	○	
339	3F2a	10	1	黒曜石	砕片	10.04	0.18	○	
340	3F2a	10	2	黒曜石	砕片	6.43	0.03	○	
341	3F2a	10	3	黒曜石	砕片	5.82	0.03	○	
342	3F2a	10	4	黒曜石	砕片	4.86	0.02	○	
343	3F2a	10	5	黒曜石	砕片	3.63	0.00	○	
344	3F2a	10	6	黒曜石	砕片	5.47	0.00	○	
345	3F2a	10	7	黒曜石	砕片	4.19	0.00	○	
346	3F31b	1	1	黒曜石	調片	1.50	0.80	?	第11画1
347	3F31b	1	2	黒曜石	調片	9.64	0.31	○	
348	3F31b	1	3	黒曜石	調片	4.15	0.16	○	
349	3F2a	2	1	黒曜石	砕片	10.81	0.04	○	

No	戸号 番号	建物 番号	積 数	材質	名称	長さ (mm)	重量 (g)	熱 伝 導 係 数	備考
350	3F2a	3	2	黒曜石	砕片	10.58	0.04	○	
351	3F2a	3	1	黒曜石	砕片	7.54	0.04	○	
352	3F2a	4	1	黒曜石	砕片	4.36	0.03	○	
353	3F2a	14	1	黒曜石	砕片	8.79	0.09	?	
354	3F2b	5	1	黒曜石	砕片	8.76	0.11	○	
355	3F2b	6	1	黒曜石	砕片	13.21	0.38	○	
356	3F2b	7	1	黒曜石	砕片	9.40	0.18	○	
357	3F2b	8	1	黒曜石	砕片	8.60	0.06	○	
358	3F2b	12	1	黒曜石	砕片	8.51	0.11	○	
359	3F2a	9	1	黒曜石	砕片	8.39	0.12	○	
360	3F2a	11	1	黒曜石	砕片	8.40	0.15	○	
361	3F3a	4	1	黒曜石	砕片	11.14	0.29	○	
362	3F3b	1	1	黒曜石	砕片	6.22	0.08	○	
363	3F3b	1	2	黒曜石	砕片	7.17	0.03	○	
364	3F3b	1	3	黒曜石	砕片	3.95	0.00	○	
365	3F3b	1	4	黒曜石	砕片	8.24	0.02	○	
366	3F3b	1	5	黒曜石	砕片	5.54	0.00	○	
367	3F3b	1	6	黒曜石	砕片	2.68	0.00	○	
368	3F3c	5	1	黒曜石	砕片	10.81	0.19	○	
369	3F3c	5	2	黒曜石	砕片	8.69	0.18	○	
370	3F3c	5	3	黒曜石	砕片	7.42	0.10	○	
371	3F3c	5	4	黒曜石	砕片	7.09	0.02	○	
372	3F3c	6	1	黒曜石	砕片	9.01	0.16	○	
373	3F3a	3	1	黒曜石	砕片	8.63	0.02	○	
374	3F2b	1	1	黒曜石	砕片	13.42	0.34	○	
375	3F2b	1	2	黒曜石	砕片	11.00	0.12	?	
376	3F2b	1	3	黒曜石	砕片	8.07	0.03	○	
377	3F2b	1	4	黒曜石	砕片	6.60	0.02	○	
378	3F2b	1	5	黒曜石	砕片	6.45	0.04	○	
379	3F2b	1	6	黒曜石	砕片	5.36	0.04	○	
380	3F2b	1	7	黒曜石	砕片	3.62	0.00	○	
381	3F2b	1	8	黒曜石	砕片	4.30	0.00	○	
382	3F2b	3	1	黒曜石	砕片	9.57	0.18	○	
383	3F3a	1	1	黒曜石	砕片	10.25	0.23	○	
384	3F3a	1	2	黒曜石	砕片	4.05	0.00	○	
385	3F3a	2	1	黒曜石	砕片	9.86	0.14	○	
386	3F3a	3	1	黒曜石	調片	13.45	0.36	?	
387	3F3a	5	1	黒曜石	砕片	2.30	0.00	○	
388	3F3a	6	1	黒曜石	砕片	7.95	0.13	○	
389	3F3a	6	2	黒曜石	砕片	3.27	0.02	○	
390	3F3a	7	1	黒曜石	砕片	8.07	0.06	○	
391	3F3a	7	2	黒曜石	砕片	6.17	0.02	○	
392	3F3a	8	1	黒曜石	砕片	6.94	0.07	○	
393	3F3a	11	1	黒曜石	砕片	8.95	0.21	○	
394	3F3a	11	2	黒曜石	砕片	8.43	0.11	○	
395	3F3a	11	3	黒曜石	砕片	6.53	0.02	○	
396	3F3a	11	4	黒曜石	砕片	4.66	0.00	○	
397	3F3b	9	1	黒曜石	砕片	9.91	0.10	○	
398	3F3b	1	1	黒曜石	砕片	12.28	0.32	○	
399	3F3b	1	2	黒曜石	砕片	3.19	0.20	○	
400	3F3b	1	3	黒曜石	砕片	8.74	0.26	○	
401	3F3b	1	4	黒曜石	砕片	13.30	0.24	○	
402	3F3b	1	5	黒曜石	砕片	10.59	0.14	○	
403	3F3b	1	6	黒曜石	砕片	9.39	0.16	○	
404	3F3b	1	7	黒曜石	砕片	5.03	0.06	○	
405	3F3b	1	8	黒曜石	砕片	6.01	0.02	○	
406	3F3b	1	9	黒曜石	砕片	6.68	0.03	○	
407	3F3b	1	10	黒曜石	砕片	3.78	0.02	○	
408	3F3b	1	11	黒曜石	砕片	5.34	0.00	○	
409	S2001	6	1	黒曜石	調片	16.60	0.74	?	
410	表採	2	1	黒曜石	砕片	8.63	0.13	?	
411	表採	3	1	黒曜石	砕片	10.60	0.23	?	
412	表採	3	2	黒曜石	砕片	5.04	0.03	○	
413	表採	3	3	黒曜石	砕片	6.79	0.07	○	
414	表採	3	4	黒曜石	砕片	5.62	0.04	○	
415	表採	3	5	黒曜石	砕片	6.97	0.03	○	
416	表採	3	6	黒曜石	砕片	5.48	0.03	○	
417	17号	2	1	チャート	板石	60.00	101.36	○	第11画7

第2節 縄文時代

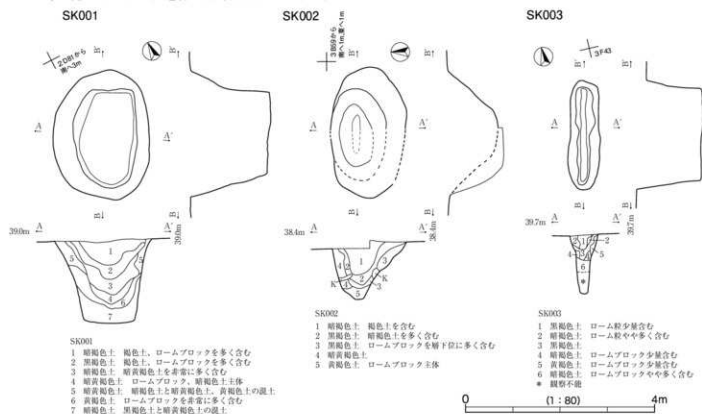
1. 遺構 (第2・12図、図版4)

今回の調査範囲からは、陥穴状遺構3基が検出されたのみである。3基とも縄文時代の遺構であることを明確に示す遺物は出土しなかったが、その形状及び調査時の所見等から縄文時代に帰属すると判断した。調査時の遺構番号順に報告する。

SK001 調査範囲の中央部北寄りに設定した13トレンチ(2D 90・91グリッド)で検出された。検出面でのプランは長径2.76m×短径2.05mを測る楕円形を呈し、主軸方位はN-27°-Eを取る。検出面はⅢ層中で、検出面から1.73mを測る壁は上半部こそ多少開き気味であるものの、下半部は概ね垂直に底面に至る。後世の耕作により遺構の上位を削平されていることから、構築時はさらに深かったことが推察される。ほぼ平坦な底面は長軸1.95m×短軸1.18mを測る不整隅円長方形を呈する。施設等の痕跡は認められない。遺物は、覆土中より縄文土器の小片1点が出土したのみである。

SK002 調査範囲の南西部に設定した4トレンチ(3B 58・59グリッド)で検出された。プラン上に存在した木株の影響で西側半分は遺構の検出が困難であったため、遺構各部の数値には推定値を含んでいる。検出されたプランは長径2.78m×短径1.63mを測る楕円形を呈し、主軸方位はN-89°-Wと座標北にほぼ直交する。検出面はⅢ層上面で、検出面から1.24mを測る壁は開きながら立ち上がる。ほぼ平坦な底面は長軸0.80m×短軸0.19mを測る小さな略楕円形を呈する。施設等は認められない。遺物は後期のものと思われる縄文土器の磨滅した小片5点、及び焼けた破砕礫1点が覆土中より出土したのみである。

SK003 調査範囲の南東部に当たる3F 42グリッドで下層本調査中に検出された。検出面でのプランは長さ2.32m×幅0.70mを測る溝状を呈し、主軸方位はN-15°-Eを取る。検出面はⅢ層中で、検出面から1.44mを測る壁は上半部こそ多少開き気味であるものの、下半部は概ね垂直に底面に至る。Ⅲ層中の検出であること、後世の耕作により遺構の上位を削平されていることを考えると、構築時はさらに深かったことが推察される。ほぼ平坦な底面は長軸1.96m×短軸0.17mを測る一段と細い溝状を呈する。施設等は認められない。遺物は全く出土していない。



第12図 陥穴 (SK001～SK003)

2. 縄文土器 (第13図、図版6)

量的には非常に少なく小片ばかりではあるものの、調査範囲のほぼ全域から、縄文時代早期の燃糸文系土器及び後期・加曽利B式から晩期・安行3式にかけての土器が出土した。図化した15点について報告する。

1は早期の燃糸文系土器の胴部片である。今回の調査で出土したのはこの1点のみである。縦位に施された燃糸文が見える。胎土は黒色を呈す。

2～6は後期の加曽利B式土器である。2は口縁直下に横位の沈線が1条廻り、その沈線を挟んで角度を変えて対向する斜位の沈線が施された口縁部片である。横位の沈線以下には地文の縄文が見える。3は口唇直下に押圧隆帯が廻る口縁部片である。隆帯以下には地文の条線が施される。4は粗い縄文地に2本一組の斜行沈線が垂下する胴部片である。破片上位は横位に廻る沈線が引かれ、ちょうどその沈線部分で割れている。5は斜格子状の条線を地文に持つ胴部片である。6はやや丸みを帯びた鉢の底部である。胴下部には施文された縄文が地文に見える。

7～9は後期の曾谷式～安行1式と思われる。7は杵状帯縄文を持つ平縁の口縁部片である。帯縄文間には横位の沈線が引かれ、杵状文の接続部には曲沈線の一部が見える。8は口縁直下に1条の沈線の廻る波状の口縁部片である。沈線以外の文様は見られない。9は沈線で区画された磨消縄文帯による文様区画が見える胴部片である。

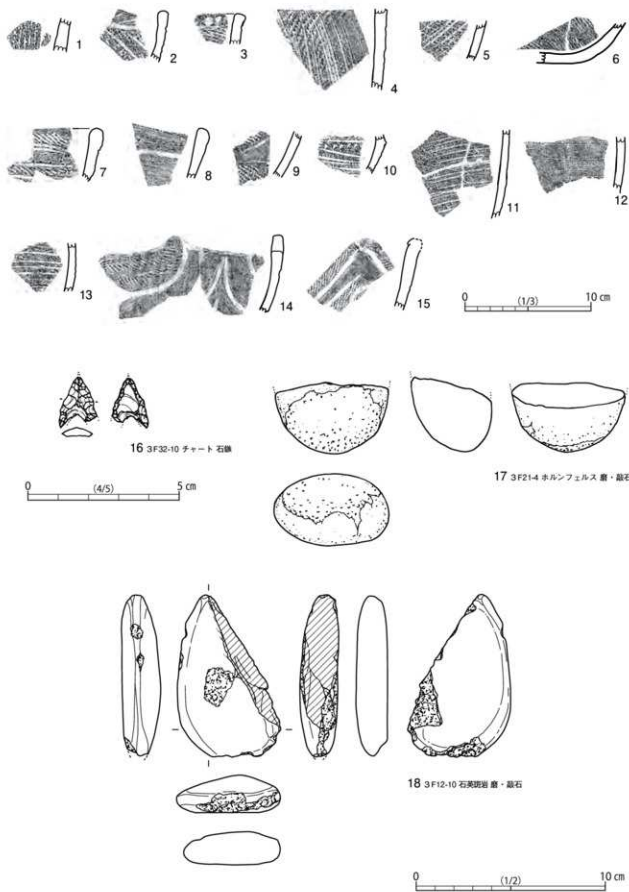
10～13には後期の加曽利B式～安行1式に伴う条線を地文とする粗製土器の胴部片を集めた。10は算盤玉状に屈曲する胴部片である。屈曲部直上には1条の沈線が横位に引かれ、屈曲部には三角形の小さな刻みが廻る。11は角度の異なる2方向の斜位の条線を地文に持つ。条線の末端は互いにわずかに交差している。直接接合しないものの、同一個体と思われる小片がほかに4点ある。12は断面が鋭く細い条線が疎らに施され、13は細い丸棒状工具による横位に近い条線を地文に持つ。

14・15は晩期の土器である。14は沈線で区画された磨消縄文帯による文様区画を持つ小型の深鉢の口縁部片である。口縁上には小さな波状の突起が付き、弧線文や三叉文を構成すると思われる沈線の一部が見える。胎土・焼成ともに非常によい。安行3a式であろう。15は沈線で区画された多段の帯縄文帯を持つ口縁部片である。山形の大きな波状口縁を呈し、波頂部分には粘土紐の剥がれた跡が見られる。安行3b式(姥山Ⅱ式)と思われる。

3. 石器 (第13図、図版6)

縄文時代に帰属すると思われる石器は図化した3点のみである。いずれも調査範囲の南東部で下層本調査中に出土したものであるが、形状の特徴から縄文時代の遺物と判断した。

16は3F32dグリッドで出土した半両面加工の凹基無茎鎌で、先端部と基部を欠損している。横長剥片を素材に用い、表面に素材の主要剥離面を残す。長さ1.6cm、幅1.2cm、厚さ0.3cm、重量0.4gを測る。石材はチャートである。17・18は磨石類の欠損品である。表面に磨耗痕と敲打痕が共存していることから、磨石と敲石の用途が考えられる。ともに被熱している。17は3F21aグリッド出土で、長さ4.2cm、幅6.1cm、厚さ3.9cm、重量118.7gを測る。石材はホルンフェルスである。18は3F12dグリッド出土で、長さ8.55cm、幅5.45cm、厚さ2.0cm、重量103.4gを測る。石材は石英斑岩である。



第13図 縄文土器・石器

第3節 中世以降 (第14図、図版1・5)

調査範囲を横断するように、ほぼ東西に延びる道路状遺構1条 (SD001) を検出した。袖ヶ浦市教育委員会が、平成22年に実施した角山遺跡第2次調査の際、確認した溝状遺構と同一遺構である。

本遺構は、本来ならば「時期不明」とすべきかもしれない。しかし、後述するが、耕作により上部を削平され、遺存状況の悪い中で検出された遺構の規模や内容をはじめ、覆土内に宝永4(1707)年の富士山火山灰が認められないこと、明治初期に発行された陸軍迅速図には、本遺跡の北西側の境界となっている現市道の位置に、既に敷設された道路が測量されていること等から判断して、より古い時期の道路の可能性も考え、時期の特定はできないものの、「中世以降」として本節で報告することとした。

SD001 調査範囲のほぼ中央部に設定した11トレンチで、角山遺跡第2次調査の際の「10トレンチ」及び本遺構を捕捉した。そこで、遺構の方向に沿ってトレンチを拡張するとともに、新たなトレンチを追加してその総延長の把握に努めたところ、今回の調査範囲の中では、断続的ながら150mほどを確認することができた。遺構の西端は、拡張した5トレンチ西側の3B37グリッドで、遺跡の境界となっている市道の下をさらに西へ続き、東端は同じく拡張した36トレンチ東側の3E92グリッドで、東側の調査範囲外へさらに延びることが判明した。拡張した11トレンチ周辺の約50mの範囲で遺構の精査を行った結果、後世の耕作等に伴う地面の削平のため東側に行くにつれて遺構は徐々に浅くなり、東端5mほどは遺構の検出が困難であった。検出された規模は、検出面での上端幅0.7m～3.3m、底面幅0.4m～2.0m、深さ10cm～32cmを測り、幅に比較して深さの浅い遺構であることが判明した。底面はほぼ平坦で、地形の傾きに沿って東から西に向かってやや傾斜している。底面からは、3D10～12グリッドにかけて約10mにわたって踏みしめられたような硬化面を検出した。硬化面の幅は20cm～50cmとばらつきはあるものの連続している。また、硬化面の西端からやや離れた3C19グリッド及び硬化面東端際の3D02・12グリッドには踏みしめられたような焼土面を検出した。西側の焼土は径100cm～110cmを測る範囲に、また東側の焼土は径60cmほどの範囲に広がりを持つ。焼土の堆積状況から見ると、その場所ですべて火を焚いたものではなく他所から焼土を持ってきて踏みしめたようであり、厚みもほとんどない。覆土中より遺物が少量出土したが、図化できるもの、遺構の時期を特定できるものはなかった。

なお、図版1下段の航空写真には、本遺構と思われるソイルマークが観察できる⁽⁴⁾。第14図の地形図にそのソイルマークを投影したところ、今回の調査成果にほぼ合致するように、16トレンチ回りからやや弓なりに調査範囲を越えて東方へ延び、宅地を挟んでさらに60mほど続いていることが判明した。

註

- (1) このほか、Ⅲ層のものと思われる石器は、黒曜石の割片がSD001の覆土中(3Cグリッド範囲内)より1点出土し、同じく黒曜石の破片が調査初期に重機で掘削した37トレンチの表土堆土中より11点及び調査対象範囲内外からの表探7点の計18点出土あるいは採集している。また、確ではSD001の覆土中より4点、いずれも調査範囲内西寄りの9トレンチより2点、12トレンチより1点の計7点が出土している。これらを含めると、Ⅲ層の石器の点数は、石器407点(割片13、破片394)、礫7点、軽石片1点の総計415点を数える。
- (2) 出土した黒曜石片は、長さ・幅・厚さが同程度の立方体あるいは直方体の形状をしているものが多いことから、割製作業の産物である割片と区別して、調査時より「砕片」と呼称した。
- (3) 重量の計測には、(株)島津製作所製電子天秤UXS20Sを使用した。この計器の最小取値精度は0.01gであるため、それ未満の重量の破片については、重量欄に「0.00g」と表記した。「0.00g」の破片は376点中110点あるが、仮にこのすべてが0.009gだとすると、1/100gまで求めた破片の平均重量0.07gの値は変わらない。
- (4) ソイルマークについては、袖ヶ浦市教育委員会の光江卓氏より、インターネットの地図検索サイトで使用されている航空写真に見ることをご教示いただいた。図版1の航空写真は、入手可能な選択図の中から最も条件のよい平成元年撮影のものを使用した。

第3章 まとめ

角山遺跡の発掘調査は、昭和52・53年度の第1次調査、平成22年度の第2次調査に続き、今回が3回目に当たる。今回の調査では、過去2回の調査成果に、時代的にも、内容的にも新たな成果を加えることができた。ここでは、その成果について時代を追ってまとめ、角山遺跡を概観したい。

1. 旧石器時代

角山遺跡の発掘調査で、今回初めて行われた旧石器時代の確認・本調査では、立川ローム層のⅢ層からⅨa層までの間に3枚の文化層を検出した。この成果は、従来知られていた角山遺跡の時間的な広がりやを大幅に遡らせることになった。

第1文化層には3F21周辺石器集中地点が該当する。南北27m×東西15mの範囲から、石器388点、礫7点、軽石1点が出土した。層位的には、立川ローム層のソフトローム層に当たるⅢ層段階に相当し、Ⅲ層中～上部にかけて分布が集中する。

第2文化層には、3D53石器出土地点が該当する。チャートの原石の単独出土である。層位的には、立川ローム層のソフトローム層からハードローム層への漸移層から第1黒色帯に当たるⅣ層～Ⅴ層段階に相当する。Ⅳ層とⅤ層は、今回の調査範囲では西寄りの谷頭部に近い一部のグリッドでは分層が可能だったが、大部分のグリッドでは不明瞭で分けて捉えることができなかった。

第3文化層には、2E79石器出土地点が該当する。珪質頁岩の縦長剥片の単独出土である。層位的には、立川ローム層第2黒色帯下部に当たるⅨa層段階に相当する。第2黒色帯下部に当たるⅨ層は、色調的にやや明るい間層を挟んでⅨa、Ⅸb、Ⅸcと3分層される。今回の調査範囲では間層の厚さに差こそあれ、ほぼ全域でこの3分層を観察することができた。

本調査の対象となった第1文化層の調査成果についてまとめると、出土した石器群には、

- ①石器石材はすべて黒曜石である。透明感がなく、無数に斑晶の入るもので、質はあまりよくない。
- ②平均最大長7.0mmの非常に小さな碎片（直方体あるいは立方体に近い形）が石器群の97%を占める。
- ③小型槍先形尖頭器の未成品の可能性のある二次加工ある剥片が1点出土している。
- ④7点と数は多くないが、礫が石器と混在している。礫の石材はいずれも在地で採取できるものである。
- ⑤石器も礫もほとんどすべてが被熱している。礫は1点を除き破碎している。

といった特徴が見られる。

周辺の遺跡を見ると、本遺跡の北西方向約1kmに位置し、近年報告された袖ヶ浦市向萩原遺跡に同様の石器群の調査成果があり、注目される。発掘調査は宅地造成に先立ち実施されたもので、Ⅲ層中～上部にかけて石器153点、礫51点が出土した。石器石材の主体となる黒曜石は、いずれも「不純物が混入するあまり質の良くない」ものだが、小型の尖頭器製作に関わる全行程を窺わせる石器群である。また、在地で採取できる石材の礫が石器と重複して出土し、礫の大半は破碎および被熱しているという。

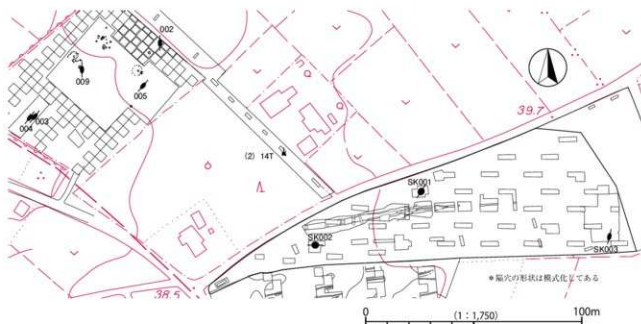
調査成果を比較すると、共通点もあるが、異なる点も少なからずある。本遺跡の所在する君津地域では、Ⅲ層中～上部出土の石器群は検出例が少ないといわれる中で、本遺跡の今回の出土資料の追加・蓄積は、当該地域の今後の石器群研究の貴重な基礎資料となるものと思われる。

2. 縄文時代 (第15図、表2)

これまでの角山遺跡の調査で検出された縄文時代の遺構は、第1次調査における早期の竪穴5基がすべてであり⁽¹⁾、ここに新たに陥穴3基の調査成果を加えることができた。

今回の調査で検出された3基の陥穴は、相互に位置が離れ、形状も主軸方位もまちまちである。そこで、市道を境として北西側に隣接する伊丹山遺跡で検出されている陥穴を含めた集成を試みた。伊丹山遺跡では、昭和53年の第1次調査時に5基、平成22年の第2次調査時に1基⁽²⁾の計6基の陥穴が検出されている。比較すると、今回検出されたSK001およびSK002の2基については今のところ類似はないが、SK003については伊丹山遺跡第1次調査の5基の陥穴の中に形状や主軸方位の近いものがあることが判明した。伊丹山遺跡第2次調査の報文中にも書かれているが、これらの陥穴が群を形成するかどうかの可能性についての詳細な分析は、周辺における今後の調査例の追加を待つことにしたい。

次に、遺物面では、第1次調査の際に、早期後半の条痕文系と後期初頭の称名寺式の2時期を主体として、早期・撚糸文系～晩期・安行3式まで、断続的ながら各時期の縄文土器の出土が報告されており、今回出土した土器もすべてその範囲内に含まれている。但し、石鏃1点、磨石類2点のわずか3点ではある



第15図 角山遺跡・伊丹山遺跡の陥穴の分布

表2 陥穴の計測値

No.	調査回数	遺構番号	形状	検出面		底面		比	深さ(cm)	主軸方位
				長軸(cm)	短軸(cm)	長軸(cm)	短軸(cm)			
1	角山(3)	SK001	楕円形	276	205	195	118	1.7	173	N-27°-E
2	角山(3)	SK002	楕円形	278	163	80	19	4.2	124	N-89°-W
3	角山(3)	SK003	溝状	232	70	196	17	11.5	144	N-15°-E
4	伊丹山(1)	002	溝状	235	103	178	25	7.1	224	N-2°-E
5	伊丹山(1)	003	溝状	260	50	267	22	12.1	131	N-47°-E
6	伊丹山(1)	004	溝状	237	80	280	30	9.3	168	N-40°-E
7	伊丹山(1)	005	溝状	240	43	216	25	8.6	161	N-49°-E
8	伊丹山(1)	009	溝状	245	70	200	15	13.3	125	N-3°-E
9	伊丹山(2)	14 T	楕円形?	-	-	-	-	-	80?	ほぼ磁北?

ものの、これまで出土が報告されていない縄文時代の石器を新たに資料に加えることができた。

以上のように、台地上における陥穴の広がりや縄文土器・石器の新たな資料を追加することができた今回の調査成果を加えても、角山遺跡の縄文時代の主体的な時期は、第1次調査で検出された炉穴5基が構築された早期後半と、出土した土器の大半が帰属する後期の2時期であることに変わりはない。

縄文時代の角山遺跡を考える場合、第1次調査の報告書にもあるように、本遺跡と同一台地上に隣接し、遺跡群を形成する可能性のある山野貝塚と伊丹山遺跡は「不可分なもの」である。今回の調査範囲からも、集落の構成要素である竪穴住居跡等の遺構は検出されなかったが、「(山野貝塚の)貝層外縁部から外側へ展開しているものと推定」される「集落や関連遺構の分布範囲を確認する」という第2次調査の目的意識を持ち続け、角山遺跡及び周辺遺跡の今後の調査成果を見守りたい。

3. 中世以降

中世以降の遺構として、調査範囲を横断するように検出されたほぼ東西方向の道路状遺構1条(SD001)を報告した。部分的に断続しながら150mほど続くその長さや方向を確認するとともに、約50mの範囲について精査したところ、検出面での上端幅0.7m～3.3m、底面幅0.4m～2.0m、深さ10cm～32cmを測り、平坦な底面には、部分的ではあるが、幅20cm～50cmの踏みしめられたような硬化面や焼土面を検出した。

本遺跡では、第1次調査の際にも道路状遺構の調査が行われている。道路状遺構は、「40cm前後の幅で踏み固められただけの部分が残っている」東西方向のものと、「上面で2mぐらゐ」の幅で「少し掘り窪めて、踏み固め」、谷頭に面した台地の縁を地形に沿って延びるものの2種が報告されており、今回の調査で検出された道路状遺構は、方向と底面の硬化面の状況は前者と、規模や形状は後者とよく似ている。

周辺遺跡の調査例を見ると、平成7・8年に(財)市原市文化財センターが調査した市原市天羽田稲荷山遺跡や、平成8年に(財)君津郡市文化財センターが調査した袖ヶ浦市山谷遺跡で検出された道路状遺構は、上端幅3m前後、底面幅0.4m～0.5m、深さ0.5mほどであり、いわゆる鎌倉街道の下新田・立野ルートが、「地域状況により、規模・構造を異にする事例」、あるいは「地点によって道路幅を大きく変えているもの」と指摘されている。この数値だけを見る限り、本遺跡のSD001も遜色ないものである。

鎌倉街道の蔵波ルートは、本遺跡の北東約1.0km～1.7kmの地点付近で、地形上の制約と思われるが、緩くS字状に蛇行している。ルートを南東から北西に向かうと、南に緩く曲がってから再び北に曲がるのだが、仮に、再び北に曲がることなく分岐して、そのまま南西方向に台地上を直進すると、その延長上で本遺跡のSD001と重なる可能性がある。本遺跡からさらに南西方向へ直進した先には、延喜式内社・飽富神社があり、あるいはその付近の大寺・蔵波ルートへと連絡する支道の存在も推定できよう。但し、時期を特定できる遺物が出土しなかった本遺構の存在が、どこまで遡行するかは今後の検討課題である。

註

- (1) 第1次調査の報告書には、調査範囲南西寄りの斜面部に2基の土坑の検出が報告されている。「遺物の出土はなく、まったく時期、性格がつかめない」とされているが、形状的には縄文時代の遺構の可能性がある。
- (2) トレンチによる確認調査のため遺構の全容が調査されたわけではないが、「ボーリング調査によると深さ約80cmに及ぶもの」で、写真図版からは長軸を南北方向に持つ楕円形プラン(検出面)を呈するものようである。「第1次調査で検出した陥穴と群を形成する」と報告されている。

写 真 图 版



図版 2



調査前風景（南西から）



調査前風景（北東から）



調査状況（土壌汚染調査時）



調査状況（土層確認調査時）



3F21 周辺遺物出土状況 (西から)



3F21 周辺遺物出土状況 (西から)



3D53 遺物出土状況 (西側から)



2E79 遺物出土状況 (南から)



調査状況 (下層作業時)



調査状況 (下層作業時)



SK001 (南西から)



SK001 土堆積状況



SK002 (西から)



SK003 (北東から)



調査状況 (遺構の調査)



調査状況 (遺構の調査)



調査状況 (遺構の調査)



調査状況 (遺構の調査)



SD001 (F5から)



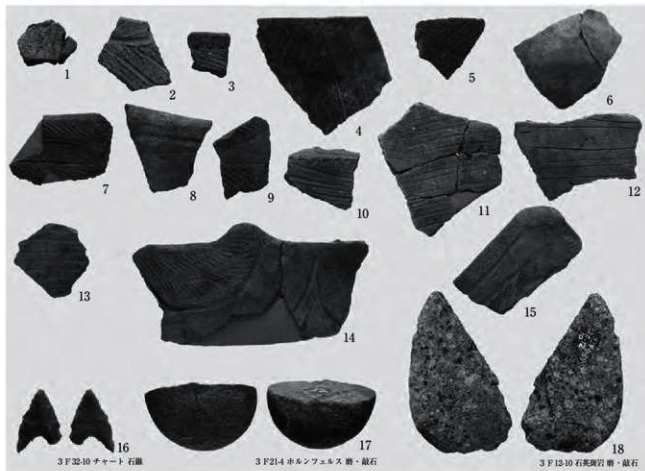
SD001 (F2から)



SD001 硬化面検出状況



SD001 焼土検出状況



報告書抄録

ふりがな	ちばけんそでがうらし すまやまいせき							
書名	千葉県袖ヶ浦市 角山遺跡							
副書名	拡委第1号 北部調整池増設工事に伴う埋蔵文化財調査委託報告書							
巻次								
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第696集							
編著者名	山田貴久							
編集機関	公益財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 Tel: 043-424-4848							
発行年月日	2013年1月22日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
角山遺跡	千葉県袖ヶ浦市 蔵波字角山2938	12229	039	35度 25分 20秒	139度 59分 43秒	20120604 ～ 20120723	1,478㎡	広域水道 増設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
角山遺跡	包蔵地	旧石器時代 縄文時代 中～近世	石器集中地点1か所(Ⅲ層) 石器出土地点2か所(Ⅳ層 ～Ⅴ層、Ⅸa層各1地点) 陥穴3基 道路状遺構1条		二次加工ある剥片、 剥片、砕片、礫、 原石 縄文土器、石器		Ⅲ層中より出土した 石器石材はすべて黒 曜石であり、礫・軽 石を含めすべてが燂 熱している。 航空写真に写るソイ ルマークの位置に道 路状遺構が存在する ことを確認した。	
要約	北部調整池増設工事に伴い実施された調査である。旧石器時代の調査では、立川ローム層Ⅲ層中～上部にかけて石器388点、礫7点、軽石1点が出土した。石器の石材はすべて黒曜石で、礫・軽石を含め、すべてが燂熱している。また、立川ローム層Ⅳ層～Ⅴ層からはチャートの原石が1点、同Ⅸa層からは珪質頁岩の縦長剥片が1点出土した。縄文時代の調査では陥穴3基を検出した。また、時代を特定できる遺物は出土しなかったものの、底面に部分的に硬化面を持つ道路状遺構1条を検出した。							

千葉県教育振興財団調査報告第 696 集

袖ヶ浦市角山遺跡

— 振委第 1 号 北部調整池増設工事に伴う埋蔵文化財調査委託—
報告書

平成 25 年 1 月 22 日発行

編 集	公益財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	君津広域水道企業団 木更津市新田 2 丁目 8 番 17 号
	公益財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡 809 番地の 2
印 刷	株式会社 弘文社 市川市市川南 2-7-2
